

第3期中期目標期間 業務実績報告書(暫定版)

(平成31年4月1日～令和6年3月31日)

令和3年12月



地方独立行政法人 静岡県立病院機構

(注) 本報告書は、令和3年9月まで(一部直近データ)の実績により調製した暫定版であり、今後、変更が見込まれる。

目 次

I 当該中期目標期間における業務実績報告

1 対 象 期 間	1
2 業務実績全般	1
(1) 機 構 全 体	1
(2) 総 合 病 院	20
(3) こころの医療センター	21
(4) こども病院	22
3 県民に対して提供する医療サービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成する ためにとるべき措置	23
(1) 医療の提供	23
(2) 医療従事者の確保及び質の向上	31
(3) 医療に関する調査及び研究	31
(4) 医療に関する地域への支援	32
(5) 災害等における医療救護	33
4 業務運営の改善及び効率化に関する目標を達成するためにとるべき措置	24
(1) 効率的な業務運営体制の強化	24
(2) 事務部門の専門性の向上	25
(3) 収益の確保と費用の節減	25
5 項目別実績	33
(参考) 用語解説	58

【数値の表記方法について】

この報告書内の数値は表示単位未満を四捨五入のため、各項目の和と総計が一致しない場合がある。



静岡県立総合病院



地方独立行政法人 静岡県立病院機構

Shizuoka Prefectural Hospital Organization

ともにつくる 信頼と安心の医療

静岡県における保健医療施策として求められる高度又は特殊な医療の提供、地域医療の支援等を行うことにより、県内医療水準の向上を図り、もって県民の健康の確保及び増進に寄与することを目的とする



静岡県立こころの医療センター



静岡県立こども病院

I 当該中期目標期間における業務実績

1 対象期間

平成31年4月1日から令和6年3月31日までの5年間

2 業務実績全般

(1) 機構全体

ア 総 括

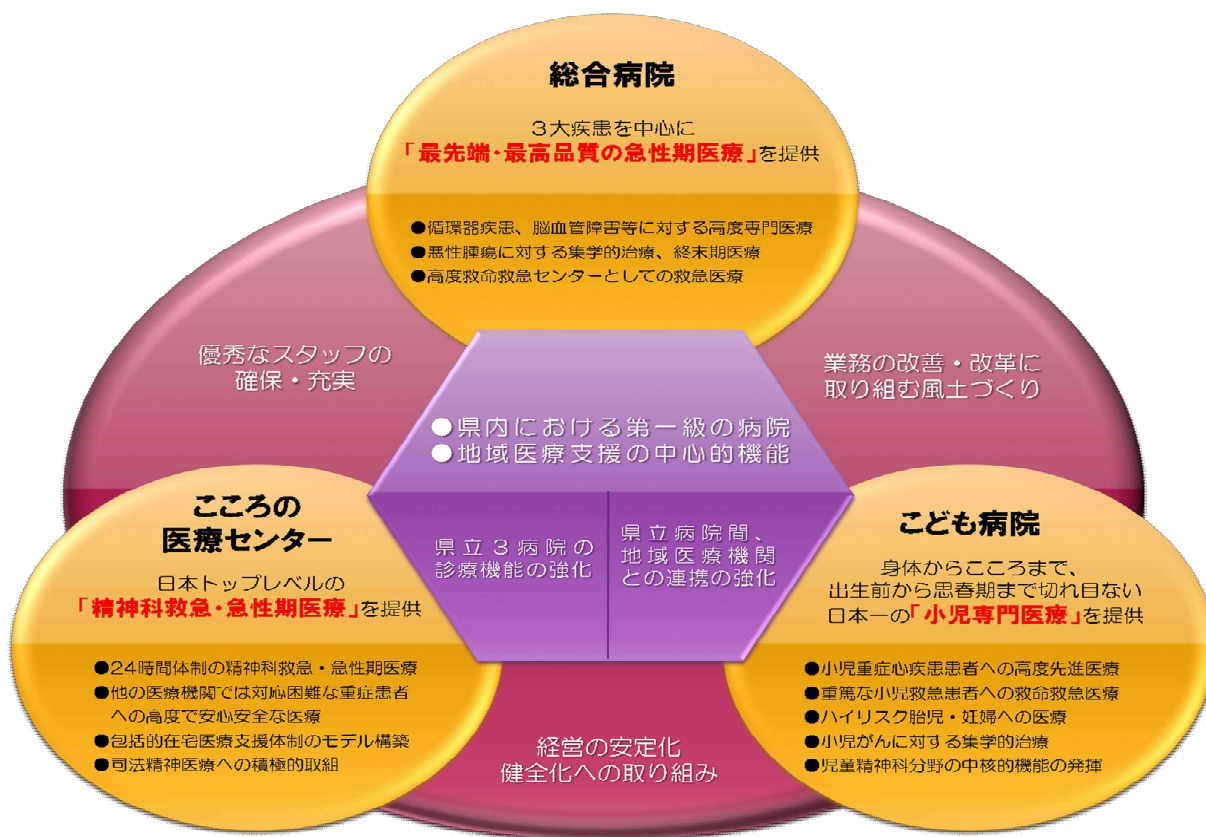
静岡県立病院機構は、高度・専門・特殊医療や救急・急性期医療等の分野において第一級の病院であること及び地域医療を確保するための支援の中心的機能を果たすため、地方独立行政法人の特徴である機動性や効率性等を発揮した病院経営に取り組んでいる。

新型コロナウイルス感染症(SARS-CoV-2、以下「新型コロナウイルス感染症」という。)については、総合病院とこども病院は「重点医療機関」として、こころの医療センターは「協力医療機関」として、県からの指定を受けて対応を行っている。

第3期中期目標期間（以下「今期」という。）の経営状況（5年間累計、3病院計税込）は、新型コロナウイルス感染症の影響により医業収支が大幅に悪化するものの、空床補償等の各種補助金も見込まれるため、経常収支費率は100%以上を確保できる見込みである。

引き続き、本機構は、医療の質を高め、高度・専門・特殊医療や救急・急性期医療等に積極的に取り組み、医療面では充実した質の高い医療を提供し、経営面では機能的で効率的な病院経営を推進し、本県の医療の確保と向上に貢献していく。

県立病院機構が目指す病院像



イ 業務実績

- ・ 総合病院は、今期の延患者数は中期計画を下回る見込み(▲109,432人)であるが、患者1人1日当り入院単価(以下、入院単価：入院収益÷年延入院患者数)は中期計画を上回る見込み(+5,936円)である。
- ・ こころの医療センターは、今期の延患者数は中期計画を下回る(▲37,944人)見込みであり、入院単価も中期計画を下回る見込み(▲595円)である。
- ・ こども病院は、今期の延患者数は中期計画を下回る(▲23,480人)見込みであり、入院単価も中期計画を下回る見込み(▲36円)である。

業務量及び業務実績【入院】(税込)

(単位：人、%、円)

区分		平31・令元		令2		令3		令4		令5		第3期計	
		中期計画 (年度計画)	実績	中期計画 (年度計画)	実績	中期計画 (年度計画)	見込	中期計画 (年度計画)	見込	中期計画 (年度計画)	見込	中期計画 (年度計画)	実績
入院延患者数	総合	235,745 (235,745)	225,595	235,100 (235,100)	203,298	235,100 (226,231)	207,084	244,375 (224,978)	224,978	245,045 (224,978)	224,978	1,195,365 (1,147,032)	1,085,933
	こころ	57,062 (57,062)	54,037	56,906 (55,498)	53,246	56,906 (52,904)	53,198	68,228 (54,546)	54,546	68,415 (54,546)	54,546	307,517 (274,556)	269,573
	こども	74,076 (74,076)	75,736	74,944 (77,212)	65,681	75,840 (75,693)	66,171	78,946 (75,948)	75,948	79,158 (75,948)	75,948	382,964 (378,877)	359,484
	計	366,883 (366,883)	355,368	366,950 (367,810)	322,225	367,846 (354,828)	326,453	391,549 (355,472)	355,472	392,618 (355,472)	355,472	1,885,845 (1,800,465)	1,714,990
病床稼働率	総合	95.2 (95.2)	91.1	95.2 (94.0)	84.8	95.2 (91.6)	87.4	95.2 (91.1)	91.1	95.2 (90.8)	90.8	95.2 (92.5)	89.1
	全体	90.5 (90.5)	86.6	90.5 (90.5)	80.7	90.5 (87.1)	83.5	93.0 (86.6)	86.6	93.0 (86.3)	86.3	91.5 (88.2)	84.8
	こころ	90.6 (90.6)	85.8	90.6 (88.4)	84.8	90.6 (84.3)	84.7	92.5 (86.9)	86.9	92.5 (86.6)	86.6	91.5 (87.4)	85.8
	こども	74.7 (74.7)	76.4	77.5 (78.1)	66.4	83.2 (76.5)	76.0	83.5 (84.6)	84.6	83.5 (84.4)	84.4	80.4 (79.5)	77.3
	計	89.5 (89.5)	86.6	90.2 (89.2)	80.2	91.7 (86.7)	84.4	92.0 (88.9)	88.9	92.0 (88.7)	88.7	91.1 (88.6)	85.8
1人1日当たり入院単価	総合	80,188 (80,188)	82,992	81,294 (82,060)	86,891	82,931 (86,020)	90,068	83,411 (90,887)	90,887	84,100 (90,887)	90,887	82,406 (85,919)	88,342
	こころ	25,273 (25,273)	24,804	25,383 (25,102)	24,814	25,383 (25,188)	26,325	26,541 (25,239)	25,239	26,541 (25,239)	25,239	25,877 (25,208)	25,282
	こども	98,455 (98,455)	97,719	98,404 (96,675)	102,820	97,412 (99,264)	97,989	100,315 (98,359)	98,359	100,315 (98,359)	98,359	99,007 (98,216)	98,971
	計	75,335 (75,335)	77,282	76,118 (76,534)	79,880	77,014 (79,775)	81,286	76,910 (82,410)	82,410	77,339 (82,410)	82,410	76,559 (79,249)	80,658

※患者1人1日当たり単価は、税込金額(調定額ベースで算定)。

※令和3年度見込は、9月末実績による年間見込。令和4、5年度見込は現在の見込数字。

(イ) 外来診療

- ・ 総合病院は、今期の延患者数は中期計画を上回る見込み(+18,869 人)で、患者1人1日当り外来単価(以下、
外来単価：外来収益÷年延外来患者数)も中期計画を上回る見込み(+2,085 円)である。
- ・ こころの医療センターは、今期の延患者数は中期計画を下回る見込み(▲24,385 人)で、外来単価は中期計画を
上回る見込み(+111 円)である。
- ・ こども病院は、今期の延患者数は中期計画を上回る見込み(+9,645 人)で、外来単価も今期中期計画を上回
る見込み(+1,456 円)である。

業務量及び業務実績【外来】(税込)

(単位：人、%、円)

区分		平31・令元		令 2		令 3		令 4		令 5		第 3 期計	
		中期計画 (年度計画)	実績	中期計画 (年度計画)	実績	中期計画 (年度計画)	見込	中期計画 (年度計画)	見込	中期計画 (年度計画)	見込	中期計画 (年度計画)	見込
外来 延患者数	総 合	433, 528 (433, 528)	448, 945	434, 561 (471, 761)	425, 092	435, 602 (460, 763)	450, 171	453, 193 (454, 534)	454, 534	457, 523 (454, 534)	454, 534	2, 214, 407 (2, 275, 120)	2, 233, 276
	こころ	41, 005 (41, 005)	39, 647	40, 837 (40, 322)	37, 285	40, 669 (40, 208)	37, 390	47, 989 (39, 975)	39, 975	48, 157 (39, 975)	39, 975	218, 657 (201, 485)	194, 272
	こども	111, 453 (111, 453)	111, 874	111, 818 (113, 916)	103, 773	111, 864 (115, 060)	121, 490	112, 818 (116, 867)	116, 867	113, 273 (116, 867)	116, 867	561, 226 (574, 163)	570, 871
	計	585, 986 (585, 986)	600, 466	587, 216 (625, 999)	566, 150	588, 134 (616, 031)	609, 051	614, 000 (611, 376)	611, 376	618, 953 (611, 376)	611, 376	2, 994, 290 (3, 050, 768)	2, 998, 419
1人1日 当たり 外来単価	総 合	21, 019 (21, 019)	21, 964	21, 619 (22, 044)	23, 331	22, 129 (23, 328)	24, 510	21, 787 (24, 519)	24, 519	21, 891 (24, 519)	24, 519	21, 692 (23, 097)	23, 777
	こころ	6, 324 (6, 324)	6, 508	6, 351 (6, 523)	6, 420	6, 351 (6, 514)	6, 320	6, 351 (6, 514)	6, 514	6, 351 (6, 514)	6, 514	6, 346 (6, 477)	6, 457
	こども	13, 480 (13, 480)	14, 131	13, 505 (13, 545)	15, 550	13, 483 (14, 596)	14, 846	13, 450 (15, 081)	15, 081	13, 450 (15, 081)	15, 081	13, 474 (14, 368)	14, 930
	計	18, 556 (18, 556)	19, 484	19, 012 (19, 497)	20, 791	19, 393 (20, 600)	21, 465	19, 049 (21, 538)	21, 538	19, 137 (21, 538)	21, 538	19, 031 (20, 357)	20, 971

※患者1人1日当たり単価は、税込金額(調定額ベースで算定)。

※令和3年度見込は、9月末実績による年間見込。令和4、5年度見込は現在の見込数字。

<参考資料>

(単位：日、円)

区 分		平 31・令元	令 2	令 3 見込	令 4 見込	令 5 見込
平均在院 日数	総 合	11.4	11.2	10.8	10.8	10.8
	こころ	104.8	110.6	111.1	108.9	108.9
	こども	10.3	9.3	9.3	9.3	9.3
紹介率	総 合	92.4	93.8	93.2	93.2	93.2
	こころ	56.1	51.2	47.7	51.7	51.7
	こども	90.9	90.7	90.6	90.9	91.8
逆紹介率	総 合	174.7	195.4	196.6	196.6	196.6
	こころ	33.7	30.1	26.9	30.2	30.2
	こども	47.7	44.8	40.3	44.8	47.7

※平均在院日数は、総合及びこどもは一般病床分(こどもはNICU、GCU、MFICU 除く)で算定。こころは医療観察 法病床を除いて算定。

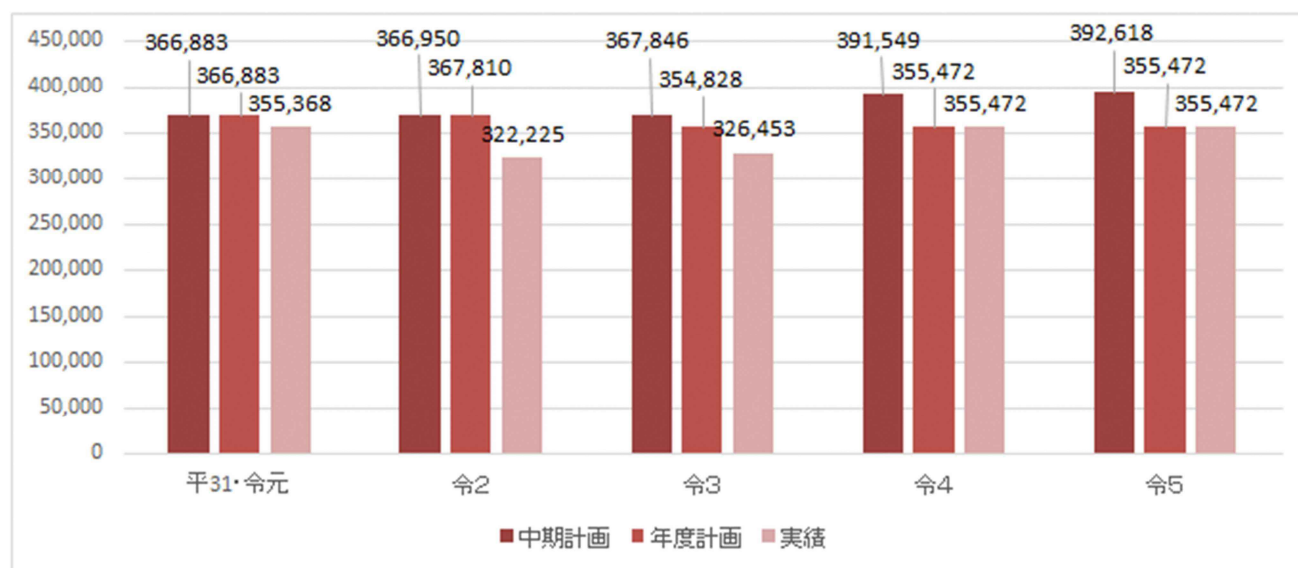
※令和3年度見込は、9月末実績による年間見込。令和4、5年度見込は現在の見込数字。

患者数の推移（平31・令元年度実績～令5年度見込）

- ・入院患者数は新型コロナウイルス感染症の影響により令和2年度に大きく減少し、令和3年度も計画を下回る見込みである。

入院延患者数（3病院計）

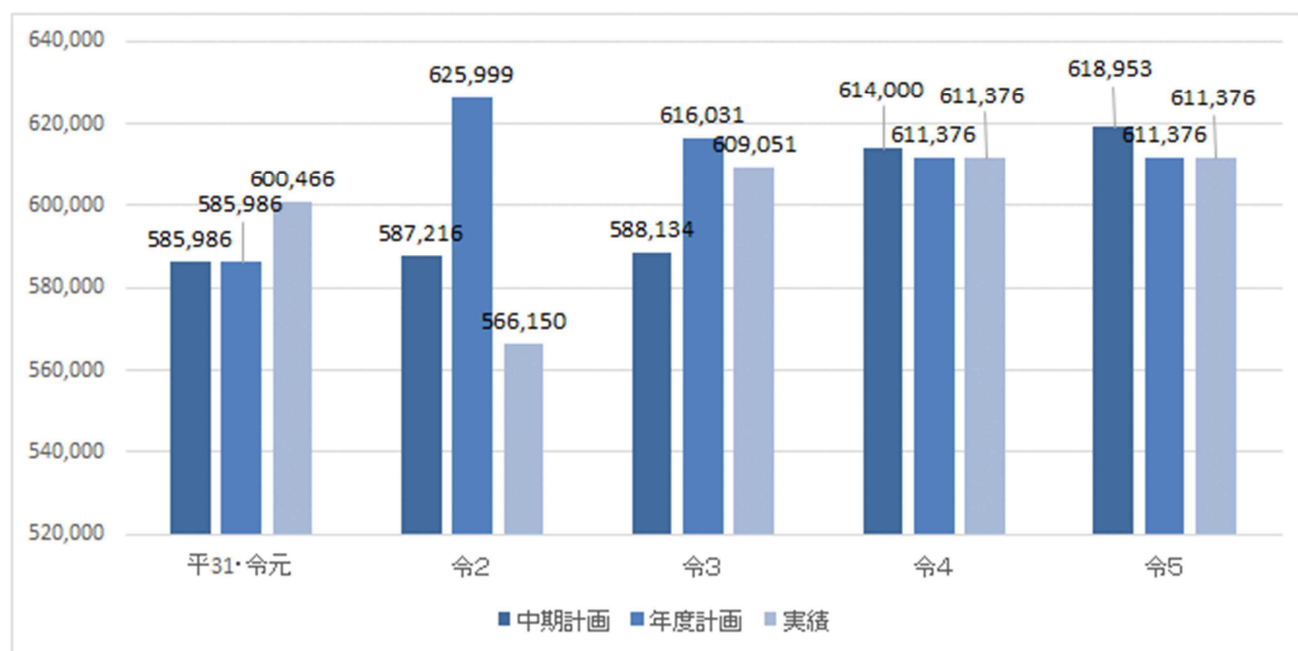
（単位：人）



- ・外来延患者数は、新型コロナウイルス感染症の影響により令和2年度に大きく減少したが、令和3年度は中期計画を上回る見込みである。

外来延患者数（3病院計）

（単位：人）



(ウ) 収支実績 (税込)

- ・経常損益累計は、1,716,501千円の経常利益となり、中期計画よりも269,191千円減少する見込みであるが、5年間累計の経常収支比率は、100%以上(100.7%)を達成する見込みである。
- ・当期純損益累計は、1,157,885千円の当期純利益となり、中期計画よりも13,269千円増加する見込みである。
- ・収益累計は、中期計画よりも5,000,112千円の増加となる見込みである。
- ・費用累計は、中期計画よりも4,986,843千円の増加となる見込みである。

①収益的収支・機構全体 (税込)

(単位：千円)

区分	款	項	平31・令元	令 2	令 3	令 4	令 5	第 3 期計
収益	営業収益	医 業 収 益	39,778,092	38,077,321	40,243,482	43,131,702	43,131,702	204,362,299
		運営費負担金収益	6,840,818	6,853,050	6,863,798	6,875,990	6,875,990	34,309,646
		その他営業収益	642,005	2,692,956	2,573,662	799,005	799,005	7,506,633
		小 計	47,260,915	47,623,327	49,680,942	50,806,697	50,806,697	246,178,578
	営業外収益	運営費負担金収益	159,182	146,950	136,202	124,010	124,010	690,354
		その他営業外収益	301,630	245,806	260,172	491,336	491,336	1,790,280
		小 計	460,812	392,756	396,374	615,346	615,346	2,480,634
	臨時利益	臨 時 利 益	25,000	85,511	57,133	153,606	153,606	474,856
	収 益 計		47,746,727	48,101,594	50,134,449	51,575,649	51,575,649	249,134,068
	(中 期 計 画)		(47,072,464)	(47,662,755)	(48,297,249)	(50,354,573)	(50,746,915)	(244,133,956)
(増 減 額)		(674,263)	(438,838)	(1,837,200)	(1,221,076)	(828,734)	(5,000,112)	
費用	営業費用	医 業 費 用	46,301,294	46,315,442	48,561,952	50,297,886	50,297,886	241,774,460
		一 般 管 理 費	356,878	364,585	393,755	391,434	391,434	1,898,085
		小 計	46,658,171	46,680,027	48,955,707	50,689,320	50,689,320	243,672,545
	営業外費用	財 務 費 用	285,598	259,502	240,941	239,692	239,692	1,265,426
		その他営業外費用	346,610	370,993	393,943	446,597	446,597	2,004,740
		小 計	632,209	630,495	634,884	686,289	686,289	3,270,166
	臨時損失	臨 時 損 失	154,800	251,897	226,695	200,040	200,040	1,033,471
	費 用 計		47,445,180	47,562,419	49,817,286	51,575,649	51,575,649	247,976,183
	(中 期 計 画)		(47,199,176)	(47,464,937)	(48,140,369)	(49,801,030)	(50,383,828)	(242,989,340)
	(増 減 額)		(246,004)	(97,483)	(1,676,917)	(1,774,619)	(1,191,821)	(4,986,843)
経 常 損 益		431,347	705,561	486,725	46,434	46,434	1,716,501	
(中 期 計 画)		(142,208)	(340,858)	(299,918)	(696,582)	(506,126)	(1,985,692)	
(増 減 額)		(289,139)	(364,703)	(186,807)	(▲ 650,148)	(▲ 459,692)	(▲ 269,191)	
当 期 純 損 益		301,548	539,174	317,163	0	0	1,157,885	
(中 期 計 画)		(▲ 126,712)	(197,819)	(156,879)	(553,543)	(363,087)	(1,144,616)	
(増 減 額)		(428,260)	(341,356)	(160,284)	(▲ 553,543)	(▲ 363,087)	(13,269)	
経 常 収 支 比 率		100.9%	101.5%	101.0%	100.1%	100.1%	100.7%	
(中 期 計 画)		(100.3%)	(100.7%)	(100.6%)	(101.4%)	(101.0%)	(100.8%)	

年度計画	経常収支	142,208	218,291	55,877	46,434	46,434	509,244
	経常収支比率	100.3%	100.4%	100.1%	100.1%	100.1%	100.2%

※単位未満四捨五入のため各項目の和と総計が一致しない場合がある（以下同様）。

※令和3年度見込は、9月末実績による年間見込。令和4、5年度見込は現在の見込数字。

②資本的収支・機構全体（税込）

（単位：千円）

区分	款	項	平31・令元	令 2	令 3	令 4	令 5	第 3 期計
収入	資本入	長期借入金	2,371,000	3,789,000	4,155,000	7,714,000	4,088,000	22,117,000
		補助金・寄附金等	59,220	402,013	0	0	0	461,233
		計	2,430,220	4,191,013	4,155,000	7,714,000	4,088,000	22,578,233
支出	資本出	建設改良費	2,423,954	4,341,528	4,711,175	10,316,469	4,133,344	25,926,470
		償還金	3,195,954	3,991,446	3,085,926	5,544,000	3,577,424	19,394,751
		長期貸付金	131,023	100,488	95,150	120,739	182,617	630,017
		計	5,750,931	8,433,463	7,892,251	15,981,208	7,893,385	45,951,238
総収支			▲ 3,320,711	▲ 4,242,450	▲ 3,737,251	▲ 8,267,208	▲ 3,805,385	▲ 23,373,005
(中 期 計 画)			(▲ 3,470,814)	(▲ 4,326,162)	(▲ 4,224,454)	(▲ 6,518,808)	(▲ 4,186,695)	(▲ 22,726,933)
(増 減 額)			(150,103)	(83,712)	(487,203)	(▲ 1,748,400)	(381,310)	(▲ 646,072)

（エ）病院別収支実績

- 総合病院の経常損益累計は、882,835千円の経常利益となり、中期計画よりも380,571千円減少する見込みである。また、5年間累計の経常収支比率は100.5%となる見込みである。新型コロナウイルス感染症の影響を受ける中でも、医療内容の高度化、手術件数の増加、ゲノム関連収益の増加、集中治療系病棟の稼働率向上、積極的な施設基準の新規取得およびランクアップを行い、単価増を図るなど、収益確保の取り組みを行っている。
- こころの医療センターの経常損益累計は、491,521千円の経常利益となり、中期計画よりも253,102千円増加する見込みである。また、5年間累計の経常収支比率は103.6%となる見込みである。新型コロナウイルス感染症の影響を受ける中でも、精神科救急病棟の効率的な運用により入院単価の増を図るなど、収益確保の取り組みを行っている。
- こども病院の経常損益累計は、342,145千円の経常利益となり、中期計画よりも141,721千円減少する見込みである。また、5年間累計の経常収支比率は100.5%となる見込みである。新型コロナウイルス感染症の影響を受ける中でも、令和3年6月にPICUとCCUを統合することで小児特定集中治療室加算の算定率を向上させたほか、積極的な施設基準の取得を行い、単価増を図るなど、収益確保の取り組みを行っている。
- 3病院の資本的支出については、総合病院では第Ⅰ・Ⅱ期リニューアル工事、こころの医療センターでは受変電設備更新工事、こども病院では本館リニューアル工事等を実施している。また、3病院全体で電子カルテシステムの統一を進めている。

(エ) 病院別収支実績

【 総 合 病 院 】

①収益的収支 (税込)

(単位：千円)

区分	款	項	平31・令元	令 2	令 3	令 4	令 5	第 3 期計
収益	営業収益	医 業 収 益	29,098,221	28,066,566	30,214,584	32,154,754	32,154,754	151,688,879
		運営費負担金収益	2,654,274	2,657,873	2,660,506	2,664,958	2,664,958	13,302,569
		その他営業収益	412,190	1,621,083	1,582,212	284,728	284,728	4,184,941
		小 計	32,164,685	32,345,522	34,457,302	35,104,440	35,104,440	169,176,389
	営業外収益	運営費負担金収益	85,726	82,127	79,494	75,042	75,042	397,431
		その他営業外収益	251,986	209,718	214,941	450,385	450,385	1,577,415
		小 計	337,712	291,845	294,435	525,427	525,427	1,974,846
	臨時利益	臨 時 利 益	25,000	85,511	50,466	10,711	10,711	182,399
	収 益 計		32,527,397	32,722,878	34,802,203	35,640,578	35,640,578	171,333,634
	(中 期 計 画)		(31,768,316)	(32,266,597)	(32,892,382)	(34,001,646)	(34,361,000)	(165,289,940)
(増 減 額)		(759,081)	(456,281)	(1,909,821)	(1,638,932)	(1,279,578)	(6,043,693)	
費用	営業費用	医 業 費 用	31,786,665	31,902,355	33,752,821	35,006,648	35,006,648	167,455,137
		一 般 管 理 費	118,959	121,528	131,250	130,475	130,475	632,687
		小 計	31,905,624	32,023,883	33,884,071	35,137,123	35,137,123	168,087,824
	営業外費用	財 務 費 用	158,680	145,569	141,136	148,244	148,244	741,873
		その他営業外費用	259,801	271,380	289,713	308,905	308,905	1,438,703
		小 計	418,481	416,948	430,849	457,149	457,149	2,180,576
	臨時損失	臨 時 損 失	143,870	212,059	193,173	46,306	46,306	641,714
	費 用 計		32,467,975	32,652,890	34,508,093	35,640,578	35,640,578	170,910,115
	(中 期 計 画)		(31,961,743)	(32,055,716)	(32,748,263)	(33,831,032)	(34,085,924)	(164,682,677)
	(増 減 額)		(506,232)	(597,175)	(1,759,830)	(1,809,546)	(1,554,654)	(6,227,438)
	経 常 損 益		178,292	196,536	436,817	35,595	35,595	882,835
	(中 期 計 画)		(400)	(326,460)	(259,698)	(286,193)	(390,655)	(1,263,406)
(増 減 額)		(177,891)	(▲ 129,924)	(177,119)	(▲ 250,598)	(▲ 355,060)	(▲ 380,571)	
当 期 純 損 益		59,421	69,987	294,110	0	0	423,519	
(中 期 計 画)		(▲ 193,428)	(210,881)	(144,119)	(170,614)	(275,076)	(607,263)	
(増 減 額)		(252,849)	(▲ 140,894)	(149,991)	(▲ 170,614)	(▲ 275,076)	(▲ 183,745)	
経 常 収 支 比 率		100.6%	100.6%	101.3%	100.1%	100.1%	100.5%	
(中 期 計 画)		(100.0%)	(101.0%)	(100.8%)	(100.8%)	(101.1%)	(100.8%)	
年度計画	経 常 損 益		400	181,651	38,449	35,595	35,595	291,690
	経常収支比率		100.0%	100.5%	100.1%	100.1%	100.1%	100.2%

②資本的収支 (税込)

(単位：千円)

区分	款	項	平31・令元	令 2	令 3	令 4	令 5	第 3 期計
収入	資本収入	長期借入金	1,773,000	2,308,000	3,170,600	4,675,440	2,217,000	14,144,040
		その他収入	43,877	140,757	0	0	0	184,634
		計	1,816,877	2,448,757	3,170,600	4,675,440	2,217,000	14,328,674
支出	資本支出	建設改良費	1,797,404	2,488,165	3,310,762	6,482,321	2,238,388	16,317,041
		償還金	1,860,775	2,528,436	1,553,270	4,387,000	2,345,171	12,674,652
		長期貸付金	96,957	69,585	74,680	91,583	140,629	473,434
		計	3,755,135	5,086,186	4,938,712	10,960,904	4,724,188	29,465,126
総収支			▲ 1,938,259	▲ 2,637,428	▲ 1,768,112	▲ 6,285,464	▲ 2,507,188	▲ 15,136,452
(中 期 計 画)			(▲ 2,059,476)	(▲ 2,776,726)	(▲ 2,547,703)	(▲ 4,691,642)	(▲ 2,659,201)	(▲ 14,734,747)
(増 減 額)			(121,217)	(139,297)	(779,591)	(▲ 1,593,822)	(152,012)	(▲ 401,705)

【 ころの医療センター 】

①収益的収支（税込）

（単位：千円）

区分	款	項	平31・令元	令 2	令 3	令 4	令 5	第 3 期計
収益	営業収益	医 業 収 益	1,607,673	1,571,451	1,651,310	1,651,473	1,651,473	8,133,380
		運営費負担金収益	1,065,901	1,070,515	1,075,297	1,079,032	1,079,032	5,369,777
		その他営業収益	50,021	197,275	135,331	63,740	63,740	510,107
		小 計	2,723,595	2,839,241	2,861,938	2,794,245	2,794,245	14,013,264
	営業外収益	運営費負担金収益	14,099	9,485	4,703	968	968	30,223
		その他営業外収益	9,126	5,728	5,422	5,634	5,634	31,544
		小 計	23,225	15,213	10,125	6,602	6,602	61,767
	臨時利益	臨 時 利 益	0	0	3,333	24,554	24,554	52,441
	収 益 計		2,746,820	2,854,454	2,875,396	2,825,401	2,825,401	14,127,472
	(中 期 計 画)		(2,819,658)	(2,821,768)	(2,819,563)	(3,230,566)	(3,236,444)	(14,927,998)
(増 減 額)		(▲ 72,838)	(32,687)	(55,833)	(▲ 405,165)	(▲ 411,043)	(▲ 800,526)	
費用	営業費用	医 業 費 用	2,512,042	2,481,447	2,542,884	2,643,750	2,643,750	12,823,873
		一 般 管 理 費	118,959	121,528	131,250	130,475	130,475	632,687
		小 計	2,631,001	2,602,976	2,674,134	2,774,225	2,774,225	13,456,561
	営業外費用	財 務 費 用	21,686	14,714	7,478	2,641	2,641	49,160
		その他営業外費用	11,205	11,885	14,586	20,057	20,057	77,790
		小 計	32,891	26,599	22,064	22,698	22,698	126,950
	臨時損失	臨 時 損 失	7,672	3,335	3,333	28,478	28,478	71,296
	費 用 計		2,671,564	2,632,909	2,699,531	2,825,401	2,825,401	13,654,806
	(中 期 計 画)		(2,747,038)	(2,824,967)	(2,827,198)	(3,156,403)	(3,183,819)	(14,739,425)
	(増 減 額)		(▲ 75,474)	(▲ 192,058)	(▲ 127,667)	(▲ 331,002)	(▲ 358,418)	(▲ 1,084,619)
経 常 損 益		82,928	224,880	175,865	3,924	3,924	491,521	
(中 期 計 画)		(91,231)	(4,609)	(173)	(81,971)	(60,433)	(238,419)	
(増 減 額)		(▲ 8,303)	(220,271)	(175,692)	(▲ 78,047)	(▲ 56,509)	(253,102)	
当 期 純 損 益		75,256	221,545	175,865	0	0	472,666	
(中 期 計 画)		(72,620)	(▲ 3,199)	(▲ 7,635)	(74,163)	(52,625)	(188,573)	
(増 減 額)		(2,636)	(224,744)	(183,500)	(▲ 74,163)	(▲ 52,625)	(284,093)	
経 常 収 支 比 率		103.1%	108.6%	106.5%	100.1%	100.1%	103.6%	
(中 期 計 画)		(103.3%)	(100.2%)	(100.0%)	(102.6%)	(101.9%)	(101.6%)	

年度計画	経 常 損 益	91,231	6,517	3,307	3,924	3,924	108,903
	経常収支比率	103.3%	100.2%	100.1%	100.1%	100.1%	100.8%

②資本的収支（税込）

（単位：千円）

区分	款	項	平31・令元	令 2	令 3	令 4	令 5	第 3 期計
収入	資本収入	長期借入金	165,000	161,000	35,700	522,480	643,000	1,527,180
		その他収入	3,027	4,813	0	0	0	7,840
		計	168,027	165,813	35,700	522,480	643,000	1,535,020
支出	資本支出	建設改良費	170,531	276,907	435,796	673,499	650,038	2,206,771
		償還金	296,142	520,598	235,208	106,000	154,408	1,312,356
		長期貸付金	7,861	6,903	5,480	8,160	11,051	39,456
		計	474,535	804,408	676,484	787,659	815,497	3,558,582
総収支			▲ 306,508	▲ 638,595	▲ 640,784	▲ 265,179	▲ 172,497	▲ 2,023,562
(中 期 計 画)			(▲ 314,880)	(▲ 540,718)	(▲ 329,869)	(▲ 180,023)	(▲ 233,353)	(▲ 1,598,843)
(増 減 額)			(8,372)	(▲ 97,876)	(▲ 310,915)	(▲ 85,156)	(60,856)	(▲ 424,719)

【 こども病院 】

① 収益的収支 (税込)

(単位：千円)

区分	款	項	平31・令元	令 2	令 3	令 4	令 5	第 3 期計
収益	営業収益	医 業 収 益	9,072,198	8,439,305	8,377,588	9,325,475	9,325,475	44,540,040
		運営費負担金収益	3,120,643	3,124,662	3,127,995	3,132,000	3,132,000	15,637,300
		その他営業収益	179,794	874,598	856,119	450,537	450,537	2,811,585
		小 計	12,372,635	12,438,564	12,361,702	12,908,012	12,908,012	62,988,925
	営業外収益	運営費負担金収益	59,357	55,338	52,005	48,000	48,000	262,700
		その他営業外収益	40,519	30,359	39,809	35,317	35,317	181,321
		小 計	99,876	85,697	91,814	83,317	83,317	444,021
	臨時利益	臨 時 利 益	0	0	3,334	118,341	118,341	240,016
	収 益 計		12,472,511	12,524,261	12,456,850	13,109,670	13,109,670	63,672,962
	(中 期 計 画)		(12,484,490)	(12,574,391)	(12,585,304)	(13,122,361)	(13,149,471)	(63,916,017)
(増 減 額)		(▲ 11,980)	(▲ 50,130)	(▲ 128,454)	(▲ 12,691)	(▲ 39,801)	(▲ 243,055)	
費用	営業費用	医 業 費 用	12,002,587	11,931,640	12,266,247	12,647,488	12,647,488	61,495,450
		一 般 管 理 費	118,959	121,528	131,255	130,484	130,484	632,710
		小 計	12,121,547	12,053,168	12,397,502	12,777,972	12,777,972	62,128,161
	営業外費用	財 務 費 用	105,232	99,220	92,327	88,807	88,807	474,393
		その他営業外費用	75,605	87,728	89,644	117,635	117,635	488,247
		小 計	180,836	186,948	181,971	206,442	206,442	962,640
	臨時損失	臨 時 損 失	3,257	36,503	30,189	125,256	125,256	320,461
	費 用 計		12,305,640	12,276,620	12,609,662	13,109,670	13,109,670	63,411,262
	(中 期 計 画)		(12,490,395)	(12,584,254)	(12,564,908)	(12,813,595)	(13,114,085)	(63,567,238)
	(増 減 額)		(▲ 184,755)	(▲ 307,635)	(44,754)	(296,075)	(▲ 4,415)	(▲ 155,976)
経 常 損 益		170,128	284,145	▲ 125,957	6,915	6,915	342,145	
(中 期 計 画)		(50,576)	(9,789)	(40,047)	(328,417)	(55,038)	(483,867)	
(増 減 額)		(119,551)	(274,356)	(▲ 166,004)	(▲ 321,502)	(▲ 48,123)	(▲ 141,721)	
当 期 純 損 益		166,870	247,642	▲ 152,812	0	0	261,700	
(中 期 計 画)		(▲ 5,905)	(▲ 9,863)	(20,395)	(308,766)	(35,386)	(348,779)	
(増 減 額)		(172,775)	(257,505)	(▲ 173,207)	(▲ 308,766)	(▲ 35,386)	(▲ 87,079)	
経 常 収 支 比 率		101.4%	102.3%	99.0%	100.1%	100.1%	100.5%	
(中 期 計 画)		(100.4%)	(100.1%)	(100.3%)	(102.6%)	(100.4%)	(100.8%)	

年度計画	経 常 損 益	50,576	30,123	14,121	6,915	6,915	108,650
	経常収支比率	100.4%	100.2%	100.1%	100.1%	100.1%	100.2%

②資本的収支 (税込)

(単位：千円)

区分	款	項	平31・令元	令 2	令 3	令 4	令 5	第 3 期計
収入	資 収 本入	長 期 借 入 金	433,000	1,320,000	948,700	2,516,080	1,228,000	6,445,780
		そ の 他 収 入	12,316	256,442	0	0	0	268,758
		計	445,316	1,576,442	948,700	2,516,080	1,228,000	6,714,538
支出	資 支 本出	建 設 改 良 費	456,019	1,576,456	964,617	3,160,649	1,244,918	7,402,659
		償 還 金	1,039,037	942,412	1,297,448	1,051,000	1,077,845	5,407,743
		長 期 貸 付 金	26,205	24,000	14,990	20,996	30,937	117,128
		計	1,521,260	2,542,869	2,277,055	4,232,645	2,353,700	12,927,529
総 収 支			▲ 1,075,945	▲ 966,427	▲ 1,328,355	▲ 1,716,565	▲ 1,125,700	▲ 6,212,991
(中 期 計 画)			(▲ 1,096,459)	(▲ 1,008,717)	(▲ 1,346,883)	(▲ 1,647,143)	(▲ 1,294,141)	(▲ 6,393,343)
(増 減 額)			(20,514)	(42,291)	(18,528)	(▲ 69,422)	(168,442)	(180,352)

(オ) 経常収支比率の年度別推移

- 当機構では、中期計画において「業務運営の改善及び効率化を進めるなどして、今期を累計した損益計算において、経常収支比率を100%以上とすることを目指す。」としており、経営改善に取り組んでいる。
- 今期の経常収支は、5年間累計で1,716,501千円となり経常収支比率は100.7%となる見込みで、中期計画の達成を見込んでる。

経常収支の状況（税込）

（単位：千円、％）

区 分		平31・令元	令2	令3	令4	令5	第3期計
経常 損益	中期計画	142,208	340,858	299,918	696,582	506,126	1,985,692
	年度計画	142,208	218,291	55,877	46,434	46,434	509,244
	実 績	431,347	705,561	486,725	46,434	46,434	1,716,501
比率	中期計画	100.3%	100.7%	100.6%	101.4%	101.0%	100.8%
	年度計画	100.3%	100.4%	100.1%	100.1%	100.1%	100.2%
	実 績	100.9%	101.5%	101.0%	100.1%	100.1%	100.7%

※令和3年度見込は、9月末実績による年間見込。令和4、5年度見込は現在の見込数字。

(カ) 経費削減及び効率化目標との関係

- 当機構では、材料費の削減手法として①品目の絞込み、②購入単価の見直し、③材料の期限切れの発生防止、④材料の共同購入等に取り組んでいる。

材料費対医業収益比率（税込）

（単位：千円）

区 分		平31・令元	令2	令3	令4	令5	第3期計
中期 計画	医業収益	39,159,661	39,746,360	40,382,707	42,449,913	42,848,147	204,586,788
	材料費	12,161,894	12,291,759	12,515,349	13,072,133	13,207,928	63,249,062
	比 率	31.1%	30.9%	31.0%	30.8%	30.8%	30.9%
区 分		平31・令元	令2	令3	令4	令5	第3期計
実績	医業収益	39,778,092	38,077,321	40,243,482	43,131,702	43,131,702	204,362,299
	材料費	13,210,977	13,039,025	14,391,215	14,343,455	14,343,455	69,328,126
	比 率	33.2%	34.2%	35.8%	33.3%	33.3%	33.9%

(キ) 決算指標

- ・ 経常収支比率は、各年度で中期計画の数値目標である 100%を上回る見込みである。
- ・ 医業収支比率は、新型コロナウイルス感染症の影響により令和2年度に大きく低下した。
- ・ 収入構造では、入院患者1人1日当たり単価、外来患者1人1日あたり単価ともに増加傾向にある。
- ・ 費用構造では、新型コロナウイルス感染症の影響により職員給与費比率が増加している。

決算指標 <3病院計> (税込)

(単位：千円、%)

区 分	項 目	平31・令元	令2	令3	令4	令5	第3期計
収支構造	経常収支比率 (%)	100.9%	101.5%	101.0%	100.1%	100.1%	100.7%
	医業収支比率 (%)	85.9%	82.2%	82.9%	85.8%	85.8%	84.5%
収入構造	病床稼働率 (%)	86.6%	80.2%	84.4%	88.9%	88.7%	85.8%
	1人1日当たり 単価 (円)						
	入院患者	77,282	79,880	81,286	82,410	82,410	80,658
	外来患者	19,484	20,791	21,465	21,538	21,538	20,971
費用構造	職員給与費比率 (%)	56.4%	59.4%	57.7%	55.3%	55.3%	56.8%
	(職員給与費 (医業費用))	(22,436,670)	(22,621,691)	(23,211,288)	(23,870,492)	(23,870,492)	(116,010,633)
	材料費比率 (%)	33.2%	34.2%	35.8%	33.3%	33.3%	33.9%
	材料費	(13,210,977)	(13,039,025)	(14,391,215)	(14,343,455)	(14,343,455)	(69,328,126)

※令和3年度見込は、9月末実績による年間見込。令和4、5年度見込は現在の見込数字。

【収支構造】

- ・ 経常収支比率 $\text{経常収益} \div \text{経常費用} \times 100$
病院が安定した経営を行うための財政基盤を確保するための指標で、適正な区分負担を前提として 100%以上が望ましい。
- ・ 医業収支比率 $\text{医業収益} \div \text{医業費用} \times 100$
医業費用が医業収益によってどの程度賄われているかを示す指標で、100%以上が望ましい。

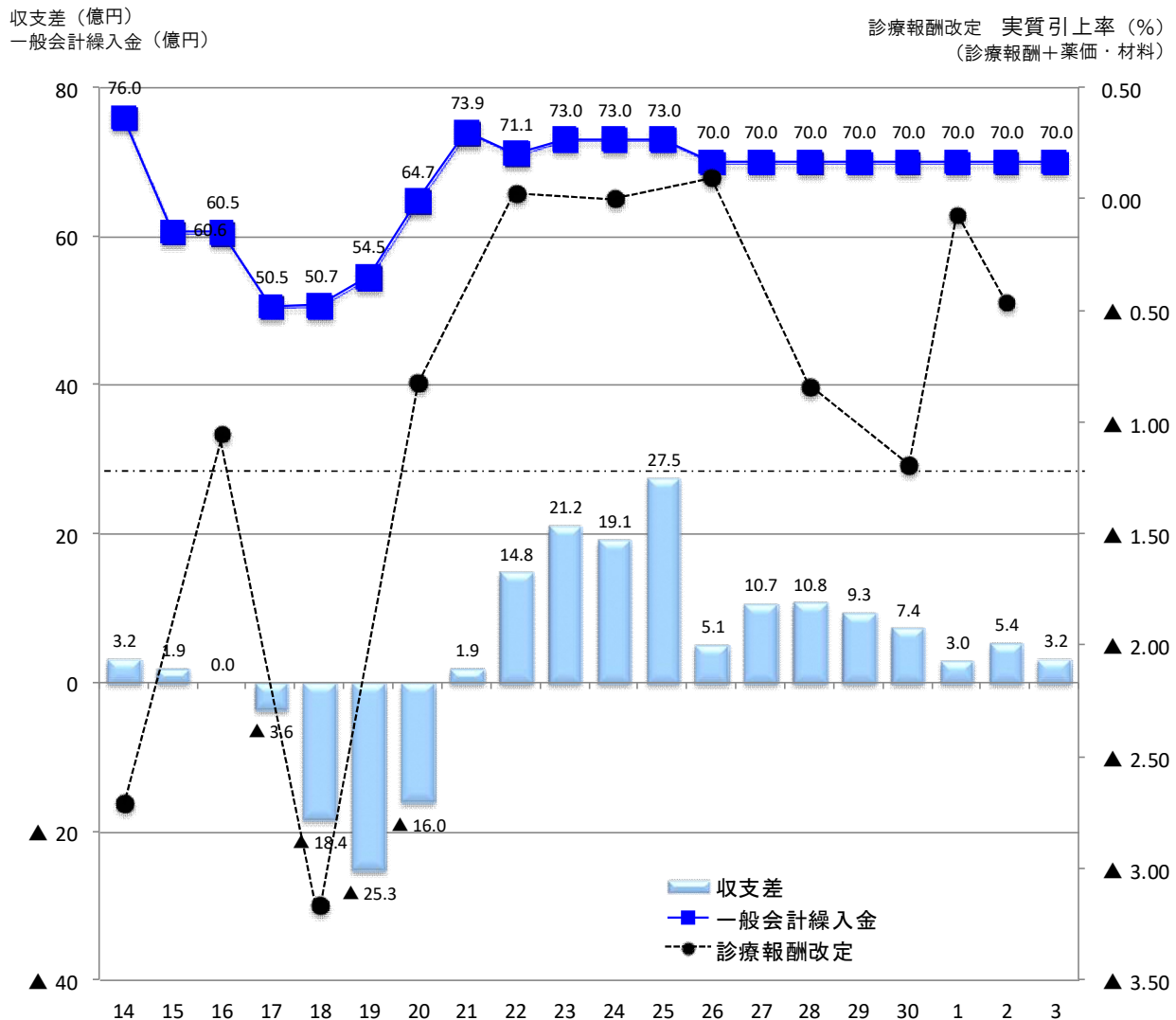
【収入構造】

- ・ 病床稼働率 $\text{年間延入院患者数} \div \text{年延病床数（稼働病床} \times \text{歴日数）} \times 100$
病院の施設が有効に活用されているか判断する指標である。
- ・ 入院患者 1 人 1 日当たり単価 $\text{入院収益} \div \text{年延入院患者数}$
- ・ 外来患者 1 人 1 日当たり単価 $\text{外来収益} \div \text{年延外来患者数}$
病院の収入分析をするうえで基本的な指標。収入を増加させるため、患者数(量的要素)と 1 人当たりの収入(質的要素)が重要となる。

【費用構造】

- ・ 職員給与比率(職員給与費対医業収益比率) $\text{職員給与費} \div \text{医業収益} \times 100$
病院の職員数等が適正であるか判断する指標。職員給与費をいかに適切なものとするかが病院経営の重要なポイントである。
- ・ 材料費比率(材料費対医業収益比率) $\text{材料費} \div \text{医業収益} \times 100$
この比率が高い場合、材料費の購入価格(方法)を見直し、材料費の削減を図る必要がある。(薬品・診療材料・その他)

5 決算状況の推移（収支と繰入金・診療報酬の改定）（3病院計）



※ 平成14年度の一般会計繰入金75.98億円には、がんセンター開院準備経費分15.44億円を含む。

※ 平成17年度から平成19年度までは繰入金10億円を抑制（県財政事情を勘案）。

※ 平成21年度から地方独立行政法人へ移行したため、一般会計繰入金は運営費負担金に名称変更。

※ 平成24年度の診療報酬改定率は薬価部分を市場価格の下落を反映して1.375%引き下げ一方、医師の診療行為や入院料などの本体部分は1.379%引き上げた結果、実質的な改定率は+0.004%となった。

※ 平成26年度の診療報酬改定率は、薬価及び材料価格の改定を0.63%引き下げ一方、本体部分を0.73%引き上げた結果、全体改定率は+0.10%となった。（消費税率引上げ対応分を除いた実質改定率は▲1.26%）

※ 平成28年度の診療報酬改定率は、薬価及び材料価格の改定をそれぞれ1.22%、0.11%引き下げ一方、本体部分を0.49%引き上げた結果、全体改定率は▲0.84%となった。

※ 平成30年度の診療報酬改定率は、薬価及び材料価格の改定をそれぞれ1.65%、0.09%引き下げ一方、本体部分を0.55%引き上げた結果、全体改定率は▲1.19%となった。

※ 令和元年10月の診療報酬改定率は、薬価の改定を0.51%引き下げ、材料価格の改定を0.03%引上げ、本体部分を0.41%引き上げた結果、全体改定率は▲0.07%となった。

※ 令和2年度の診療報酬改定率は、薬価及び材料価格の改定をそれぞれ0.99%、0.02%引き下げ一方、本体部分を0.55%引き上げた結果、全体改定率は▲0.46%となった。

(ケ) 職員の状況

① 正規職員 (毎月初め人数累計÷12 か月。ただし、令3は4～9月平均、令4・5は4/1見込) (単位：人)

区 分		平31・令元	令2	令3見込	令4見込	令5見込
総 合	医 師	177	182	189	191	191
	歯 科 医 師	4	6	6	6	6
	看 護 師	798	815	815	835	835
	看 護 師	794	813	813	833	833
	准看護師	4	2	2	2	2
	医 療 技 術	228	238	248	247	247
	事 務	59	59	62	62	62
	技 能 労 務	-	-	-	-	-
	小 計	1,266	1,300	1,319	1,341	1,341
こころ	医 師	14	13	13	15	15
	歯 科 医 師	-	-	-	-	-
	看 護 師	120	122	122	121	121
	看 護 師	120	122	122	121	121
	准看護師	-	-	-	-	-
	医 療 技 術	25	26	26	28	28
	事 務	12	12	13	13	13
	技 能 労 務	-	-	-	-	-
	小 計	171	173	174	177	177
こども	医 師	90	91	92	100	100
	歯 科 医 師	1	1	2	1	1
	看 護 師	431	440	446	434	434
	看 護 師	431	440	446	434	434
	准看護師	-	-	-	-	-
	医 療 技 術	82	84	86	85	85
	事 務	27	28	28	28	28
	技 能 労 務	-	-	-	-	-
	小 計	631	644	654	648	648
本 部	医 師	-	1	-	-	-
	看 護 師	3	1	4	4	3
	看 護 師	3	1	4	4	3
	准看護師	-	-	-	-	-
	医 療 技 術	-	0	2	1	1
	事 務	32	33	32	32	32
	技 能 労 務	-	-	-	-	-
	小 計	35	35	38	37	36
計	医 師	281	287	293	306	306
	歯 科 医 師	5	7	8	7	7
	看 護 師	1,352	1,378	1,387	1,394	1,393
	看 護 師	1,348	1,376	1,385	1,392	1,391
	准看護師	4	2	2	2	2
	医 療 技 術	335	348	361	361	361
	事 務	130	132	135	135	135
	技 能 労 務	-	-	-	-	-
	合 計	2,103	2,152	2,184	2,203	2,202

② 有期職員（毎月初め人数累計÷12 か月。ただし、令3は4～9月平均、令4・5は4/1見込）（単位：人）

区 分		平31・令元	令2	令3見込	令4見込	令5見込
総 合	医 師	94	94	97	97	97
	うち初期研修医	42	46	58	58	58
	看 護 師	62	63	62	62	62
	看 護 師	62	63	62	62	62
	准看護師	-	-	-	-	-
	医 療 技 術	37	36	24	24	24
	事 務	160	159	160	160	160
	補 助 職 員	88	84	84	84	84
小 計		441	436	428	428	428
こころ	医 師	3	5	6	6	6
	うち初期研修医	-	-	-	-	-
	看 護 師	9	10	9	9	9
	看 護 師	9	10	9	9	9
	准看護師	-	-	-	-	-
	医 療 技 術	3	3	3	3	3
	事 務	10	12	13	13	13
	補 助 職 員	9	9	10	10	10
小 計		34	39	40	40	40
こども	医 師	57	46	53	53	53
	うち初期研修医	-	-	-	-	-
	看 護 師	14	16	16	16	16
	看 護 師	13	15	15	15	15
	准看護師	1	1	1	1	1
	医 療 技 術	16	17	17	17	17
	事 務	56	52	51	51	51
	補 助 職 員	27	30	30	30	30
小 計		170	161	166	166	166
本 部	医 師	1	-	-	-	-
	看 護 師	-	-	-	-	-
	看 護 師	-	-	-	-	-
	准看護師	-	-	-	-	-
	医 療 技 術	-	-	-	-	-
	事 務	8	10	9	9	9
	補 助 職 員	1	1	1	1	1
小 計		10	11	10	10	10
計	医 師	155	144	156	156	156
	うち初期研修医	42	46	58	58	58
	看 護 師	85	89	87	87	87
	看 護 師	84	88	86	86	86
	准看護師	1	1	1	1	1
	医 療 技 術	56	56	44	44	44
	事 務	234	233	233	233	233
	補 助 職 員	126	124	125	125	125
合 計		655	647	644	644	644

※1 補助職員：看護助手、薬剤助手、放射線助手、検査助手等

※2 短期間特別研修医は含まない。

(コ) 職員の採用状況

- ・ 看護師の採用については、定期募集、経験者募集（月次募集）により、切れ目のない採用試験を行った。
- ・ 令和2年度には、新型コロナウイルス感染症が拡大する中、第1期看護職員採用試験において、Web面談と小論文に代わる書類審査に切替え実施するなど、適宜適切な採用試験の実施に努めた。
- ・ 人材確保のため、県内の養成校への訪問や修学資金の拡充の継続（貸与時期2期制等）、支度金制度の実施、病院見学会の旅費の拡充（市外 最大5万円）、静鉄電車・バス等へのポスター掲載等きめ細やかな対策を迅速に実施し、必要な看護師の採用に繋げた。（令元 123人、令2 102人、令3 108人(11月時点)）
- ・ また、看護学生向けに就職情報を提供する民間事業者が開催する合同就職説明会への参加や就職情報サイトへの情報掲載等を積極的に行った。看護師就職説明会においては、看護学生を集めるために看板等の作成やノベルティの配布を行った。新型コロナウイルス感染症の拡大以降は、Webによる養成校訪問を実施するなど、時勢にあった人材確保対策に努めた。
- ・ 医療技術、事務については、適時適切な採用を行った。

採用数の推移

(単位：人)

区 分	機 構 全 体				
	平31・令元 【令2採用】	令2 【令3採用】	令3 【令4採用見込】	令4 【令5採用見込】	令5 【令6採用見込】
看 護 師	1 2 3	1 0 2	1 0 8	1 1 1	1 1 1
事 務	4	7	1	4	4
医 療 技 術	2 6	2 1	1 6	2 1	2 1
合 計	1 5 3	1 3 0	1 2 5	1 3 6	1 3 6

※ 令3は、令3 11月1日時点（前倒し採用、アソシエイトを含む）

職員数の推移（各年度4月1日現在 現員数）

(単位：人)

区 分		平31・令元	令2	令3見込	令4見込	令5見込
医 師	正 規	288	296	300	313	313
	有 期	153	146	153	155	155
	計	441	442	453	468	468
看 護 師		1,366	1,398	1,403	1,390	1,390
医 療 技 術		333	347	362	361	361
研 究 員		2	2	0	1	1
事 務		123	131	136	141	141
(うち事務プロパー)		(68)	(77)	(83)	(89)	(89)
計		2,265	2,320	2,354	2,361	2,361

※ 正規医師には、歯科医師、自治医初期研修医、へき地代診医師を含む。

※ 有期医師の契約は、1年更新、短期間特別研修医は除く。

実働数の推移

(単位：人)

区 分		平31年4月1日時点①			令3年10月1日現在②			増 減 数 ②-①		
		定数	実働数	差引	定数	実働数	差引	定数	実働数	差引
		a	b	b-a	c	d	d-c	c-a=e	d-b=f	f-e
医 師	正 規	282	284	2	320	300	▲20	38	16	▲22
	有 期	169	153	▲16	170	155	▲15	1	2	1
	計	451	437	▲14	490	455	▲35	39	18	▲21
看 護 師		1,254	1,253	▲1	1,263	1,248	▲15	9	▲5	▲14
医 療 技 術		289	322	33	354	338	▲16	65	16	▲49
研 究 員		1	2	1	1	1	0	0	▲1	▲3
事 務		124	120	▲4	138	137	▲1	14	17	▲1
計		2,119	2,134	▲15	2,246	2,179	▲67	127	45	▲82

※ 実働数＝現員数－休職者数

(2) 総合病院

<理 念>

「信頼し安心できる質の高い全人的医療を行います」

全人的医療：身体、精神、心理、生活様式などを含めた総合的な視点から、患者さん自身の全体的な健康回復を目指す医療

<基本方針>

- 1 医療を受ける人々の立場に立ち、説明に基づく心のこもった医療を行います。
- 2 県内の中核病院として高度医療や先進的医療に取り組み、地域医療を支援します。
- 3 救急医療、災害医療、へき地医療、結核医療などの政策医療を積極的に担います。
- 4 将来の医療を担う質の高い人材を育成します。
- 5 快適な職場環境の整備と透明性の高い健全な病院運営に努めます。

<総 括>

総合病院は、県内医療機関の中核的病院として、各疾患の総合的な医療をはじめ、3大疾患（循環器疾患、脳疾患、がん疾患）に対する高度・専門医療や救急・急性期医療を提供している。

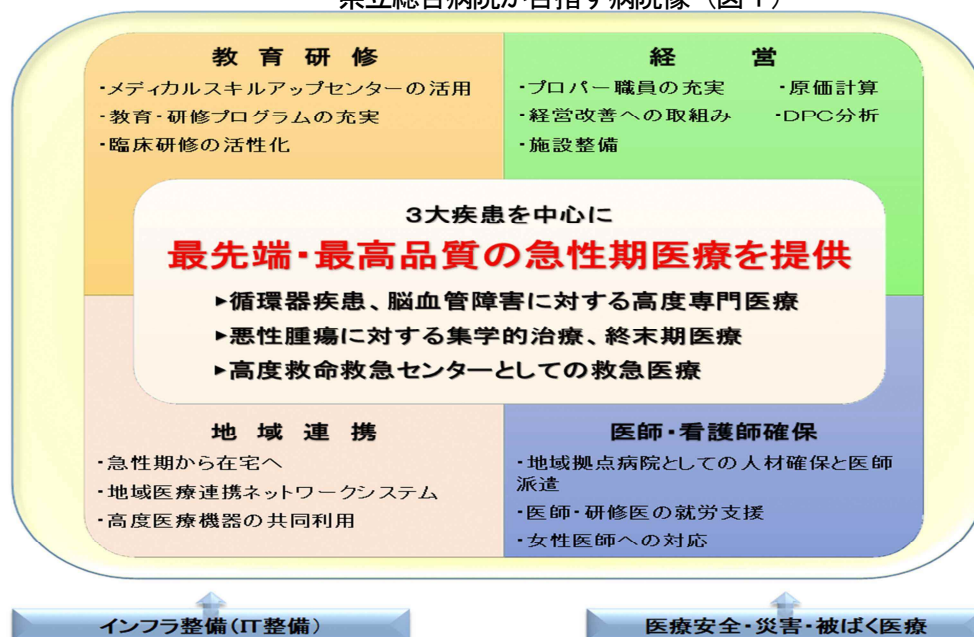
先端医学棟、循環器病センター等における最新の設備と医療機器を最大限に活用し、循環器疾患、脳疾患に対する高度・専門医療、がん疾患に対する集学的治療及び終末期医療、高度救命救急センターとしての救急医療を主要事業の三本柱として取り組んでいる。

また、県内の中核的病院として、高度・専門・特殊医療を提供するため、紹介・逆紹介の推進による地域の医療機関との機能分化及び連携強化に努めている。

経営面においては、医療の高度化、手術件数増加に伴う診療材料費の増加や、化学療法実施件数増加に伴う薬品費の増加（がん治療薬：オプジーボ、アバスチン等）に対応するため、施設基準の積極的な取得の他、平均在院日数の短縮、集中治療系病棟（ERHCU、ICU、HCU）の稼働率向上や入院料加算算定件数の増加、各診療科の稼働状況にあわせた病床再編等の経営改善に取り組んでいる。

今後も県立総合病院が目指す病院像（（図1）参照）のとおり、県立病院としての役割を果たすべく、各種機能の強化に努める。

県立総合病院が目指す病院像（図1）



(3) こころの医療センター

<理 念>

安全・良質・優しいこころの医療を、いつでもどこでも誰にでも

<基本方針>

- 1 患者さんの人権と尊厳を守ります。
- 2 24時間365日、精神科救急医療を提供します。
- 3 最新の知識と技術を取り入れた高度専門医療を提供します。
- 4 手厚いチーム医療によって早期退院を目指します。
- 5 在宅医療とリハビリテーション、社会参加を支援します。
- 6 社会資源を開拓し、連携を強化します。
- 7 司法精神医療、災害医療などの公益医療に主体的に参加します。
- 8 社会人・組織人・医療人としての人材育成に努めます。
- 9 広い視野に立って研鑽を重ね、積極的に社会へ情報発信します。
- 10 健全で透明性の高い病院経営を目指します。

<総 括>

こころの医療センターでは、日本トップレベルの「精神科救急・急性期医療」を提供するため、「救急・急性期医療の充実」、「在宅医療の拡充」、「高度な医療技術の導入」及び「司法精神医療の充実」を重点的に推進し、目標とする精神科医療の体制整備（図2参照）に取り組んでいる。

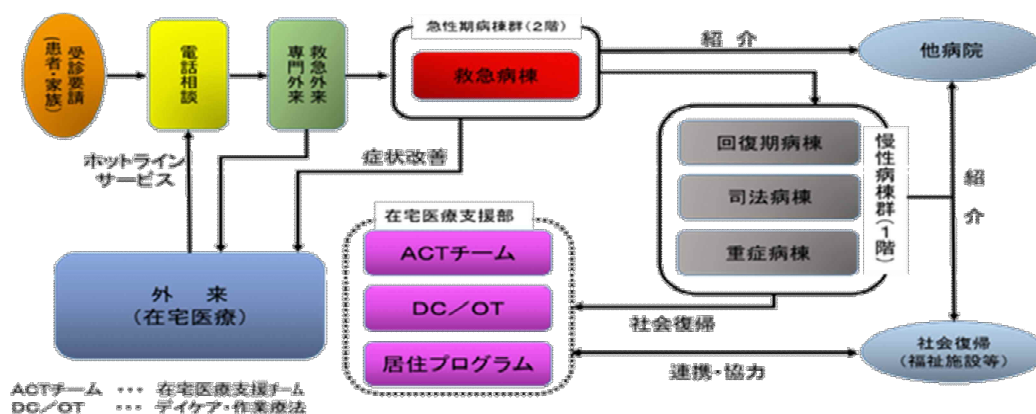
平成22年度より急性期病棟群（救急及び急性期病棟）を中心に救急・急性期患者の受け入れを行い、それを後方的に支援する慢性病棟群（回復期及び慢性重症病棟）との機能分化を進め、平成25年度には急性期病棟を救急病棟に移行する等、診療体制を強化した。平成28年度及び平成30年度に南1病棟の一部個室化を進め、救急病棟、回復期病棟における病棟間の連携強化を図り、効率的な病棟運営に努めている。

一方、精神科における医療は、「入院医療中心から地域生活中心へ」という方針が世界的趨勢であることから、在宅医療支援部門を強化し、多職種チームによる地域生活での支援体制の整備と長期入院者の退院促進に取り組んでいる。

あわせて、退院後の安定的な生活を維持し、再入院を防止することを目的に、患者に対する心理・社会的治療に積極的に取り組んでいる。

また、クロザピンや修正型電気けいれん療法（m-ECT）など、高度な医療の導入に積極的に取り組むとともに、医療観察法指定入院医療機関として安定した運営を継続するなど、県内精神医療の中核病院としての役割を果たすべく取り組んでいる。

こころの医療センター診療体制（図2）



(4) こども病院

<理 念>

「私たちは、すべての子どもと家族のために、安心と信頼の医療を行います。」

<基本方針>

「患者中心の医療サービスの継続」

地域医療機関と連携し、診断・治療が困難なこどもの患者へ
質の高い効果的な医療を提供

こども病院が目指す方向 (図3)

- | | |
|------------|--------------------|
| 1 専 門 病 院 | 安全を重視した質の高い医療 |
| 2 教 育 | 教育内容の充実が最大目標の一つ |
| 3 地 域 連 携 | 相互支援に基づいた地域医療連携 |
| 4 効率的な病院経営 | 独善に陥らない標準的な経営と改善努力 |
| 5 働きやすい病院 | スタッフの満足度が高い労働環境 |

*平成24年4月改定



<総 括>

こども病院は、昭和52年度の開院以来、静岡県の地域医療、小児医療に貢献するという設立趣旨に則り、高度かつ先進的な医療を実践してきた。

現在では、県内小児医療の中核病院として、循環器疾患医療、小児救急医療、周産期医療、小児がん医療、児童精神科医療を中心に、すべての小児の健康問題に対応可能な小児専門総合医療施設として、質の高い医療を県民に提供している。

国際交流においては、平成29年11月に友好協力協定を締結した浙江大学医学院附属儿童医院からの研修医の受入を平成28年度から行っており、令和元年度も10月には院長らが訪問し、講演を行うとともに研修医2名の受入れを決定するなど、積極的交流を行った。

また、平成31年4月1日付けで、これまでの小児がん医療への取組みにより、厚生労働省から全国15施設の小児がん拠点病院の1つとして新たに指定された。拠点病院として、診療体制の整備、地域医療機関との連携、移行期医療への対応などさらなる機能強化を図っており、令和3年度には更なる体制整備の一環として、設備面で病室のクリーン度アップなど機能強化を図り、令和3年7月に工事が完了している。

令和元年6月から、老朽化していた本館のリニューアル工事が開始され、薬剤部門、放射線部門、検査部門の機能向上と劣化改修工事を行い、ランドリーの移転により患者アメニティ（コンビニエンスストア）を整備し、令和3年3月に完成した。

令和2年4月には、静岡県からの受託により「移行期医療支援センター」を設置し、全国的に課題となっている成人移行患者への支援について検討を開始、成人移行外来の設置などの準備を進めている。

令和3年3月に南海トラフ地震事業継続計画（BCP）を策定した。今後、南海トラフ地震事業継続計画（BCP）に基づく訓練等を実施していく。

職員の就業環境の向上を図るため、新築建替えされた院内保育所において、平成31年4月から二重保育、病後児保育についても対応している。

3 県民に対して提供する医療サービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためにとるべき措置

(1) 医療の提供

ア 総合病院

○ 業務実績を示す各種指標

- ・ 入院に関して、入院延患者数及び病床稼働率は、令和2年度以降、新型コロナウイルス感染症の影響や平均在院日数の短縮等の影響により減少傾向である。一方、入院単価は、施設基準の新規取得等の他、心臓血管外科や循環器内科を中心とした診療内容の高度化、DPC入院期間Ⅱ以内の退院率向上、DPC副傷病名付与率向上等により今後も増加する見込みである。
- ・ 外来に関して、外来延べ患者数は、令和2年度は新型コロナウイルス感染症の影響により減少したが、今後も増加する見込みである。一方、外来単価は、増加要因は、外来化学療法件数の増加、高額薬剤（がん治療薬：オプジーボ、アバスチン等）の使用等、高度医療に取り組んでいることから、今後も増加する見込みである。

業務量及び単価等年間実績

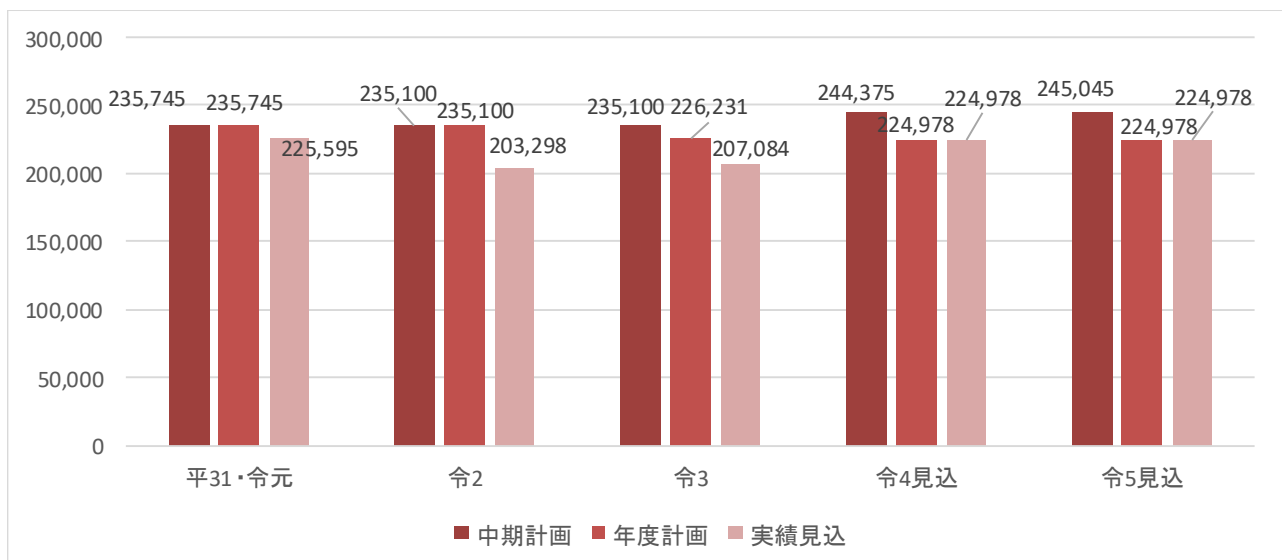
区 分			平31・令元	令2	令3見込	令4見込	令5見込
入 病 床 院	一 般 病 床	年間入院延患者数 (人)	220,628	198,075	200,906	220,025	220,025
		患者1人1日当たり単価 (円)	84,279	87,757	91,991	92,321	92,321
		平均在院日数 (日)	11.4	11.2	10.8	10.8	10.8
		病床稼働率 (%)	91.1	84.8	87.4	91.1	90.8
	結 核 病 床	年間入院延患者数 (人)	4,967	5,223	6,178	4,953	4,953
		患者1人1日当たり単価 (円)	25,828	28,503	27,537	26,899	26,899
		平均在院日数 (日)	67.9	65.1	72.5	72.5	72.5
		病床稼働率 (%)	27.1	28.6	33.9	27.1	27.1
外 来		年間外来延患者数 (人)	448,945	425,092	450,171	454,534	454,534
		患者1人1日当たり単価 (円)	21,964	23,331	24,510	24,519	24,519

※患者1人1日当たり単価は、税込金額(調定額ベースで算定)。病床稼働率は、一般病床数で算定、結核病床は50床で算定

患者数の推移（平成31・令和元年度実績～令和5年度見込）

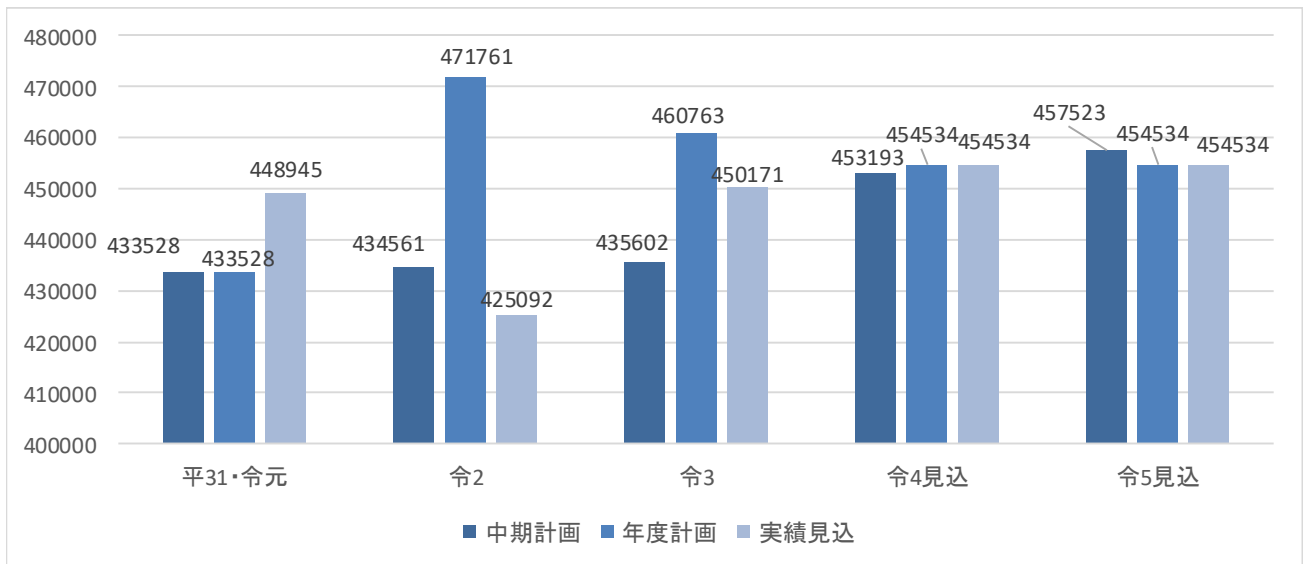
入院延患者数（総合病院）

（単位：人）



外来延患者数（総合病院）

（単位：人）



- 紹介率及び逆紹介率は計画値を上回って推移している。今後も病診・病病連携の推進に努める。

紹介率・逆紹介率

（単位：%）

区 分	平31・令元	令2	令3 見込	令4 見込	令5 見込
紹介率	92.4	93.8	93.0	93.0	93.0
逆紹介率	174.7	195.4	197.0	197.0	197.0

※ 紹介率・逆紹介率の算定方法については、用語解説を参照。

○ 特記事項

- 医療の提供については、循環器疾患及び、脳疾患に対する高度・専門医療、がん疾患に対する集学的治療及び終末期医療、高度救命救急センターとしての救急医療を主要事業の三本柱として重点的に取り組んでおり、令和2年3月の厚生労働省告示により、全国1,757のDPC病院の中で、引き続きDPC特定病院群（全国156病院が指定）を維持し、大学病院本院群と同等の高度医療及び医師研修を実施する病院として認められた。（県内では総合病院を含め6病院）
- 循環器疾患、脳疾患に対する医療については、先端医学棟3階に設置したCT・MRI・血管造影の3種類のハイブリッド手術室を活用し、最新の治療器材と鮮明な画像診断により、経カテーテル大動脈弁置換術（TAVI）、ステントグラフト内挿術、経皮的僧帽弁接合不全修復術（Mitral Clip）等の低侵襲で高度な手術を実施している。特に、心臓血管外科では、令和2年度より県内で唯一の認定機関として、新たにダ・ヴィンチ使用手術（僧帽弁形成術）を実施している。
- がん疾患に対する医療については、手術、化学療法、放射線治療等を効果的に組み合わせた高度な集学的治療を実施している。令和2年3月、静岡医療圏における地域がん診療連携拠点病院（高度型）に指定され、当院に対して症例が集約化されている。

手術は、先端医学棟3階、4階に設置したハイブリッド手術室、内視鏡手術室、ロボット支援手術室を含む23室の手術室を効率的に運用し、手術件数を着実に伸ばしている。放射線治療は、先端医学棟1階に設置したリニアック3台を稼働し、強度変調回転放射線治療（VMAT）や脳定位放射線治療、体幹部定位放射線治療等の高精度な放射線治療を実施している。化学療法は、がん専門資格を有する腫瘍内科を始めとする医師、看護師、薬剤師等が連携し、安全かつ適切な治療を行っている。

また、令和元年9月に緩和ケアセンター（緩和ケアチーム）を新たに組織し、院内における緩和医療の提供体制を充実させるとともに、地域の医療機関等との定期的なカンファレンスを通じて連携強化に取り組んでいる。

- ・ 救急医療については、高度救命救急センターとして重症熱傷、重症外傷、急性中毒等の重篤な救急患者の受入を行っている。また、平成26年6月にドクターカーを導入し、救命救急センターのスタッフが災害や事故の現場に急行又は搬送途中の救急車とドッキングして治療を開始することにより、救命率の向上に繋がっている。
- ・ 新型コロナウイルス感染症については、令和2年8月に県から重点医療機関に指定されるなど、県と連携、協力して拡大防止に対応できる体制を整備している。施設面では、新型コロナウイルス感染症の治療に迅速に対応するため、令和2年4月から、本館6階の一般病棟20床を緊急的に使用した。その後、療養環境と治療環境の充実を図るため、本館3階に18床（令和2年9月運用開始）、本館6階に透析装置を有する27床（令和3年1月運用開始）の専門病棟を整備した。令和3年8月には緊急事態宣言の発令に伴い、更なる感染拡大に備え、計47床（本館6階29床、本館3階18床）を確保した。
- ・ 結核病棟については、結核病床を有する病院の多くが新型コロナウイルス感染症病床へ切り替える状況だが、総合病院においては50床を維持し、県内における結核患者の8割以上を受入可能な体制を整えている。
- ・ 施設整備については、本館耐震補強工事を含む病棟等の改修工事を実施した。診療機能の向上及び病院利用者の快適性、利便性の向上を図るため、無菌病棟（令和元年度）、外来化学療法センター（令和2年度）、高度救命救急センター（令和3年度）等をリニューアル整備した。

(イ) こころの医療センター

○ 業務実績を示す各種指標

- 延患者数は、新型コロナウイルス感染症の影響もあり、令和元年度以降減少傾向にある。患者1人1日当たり単価は、入院単価は令和3年度が例年と比べ高くなっている。

業務量及び単価

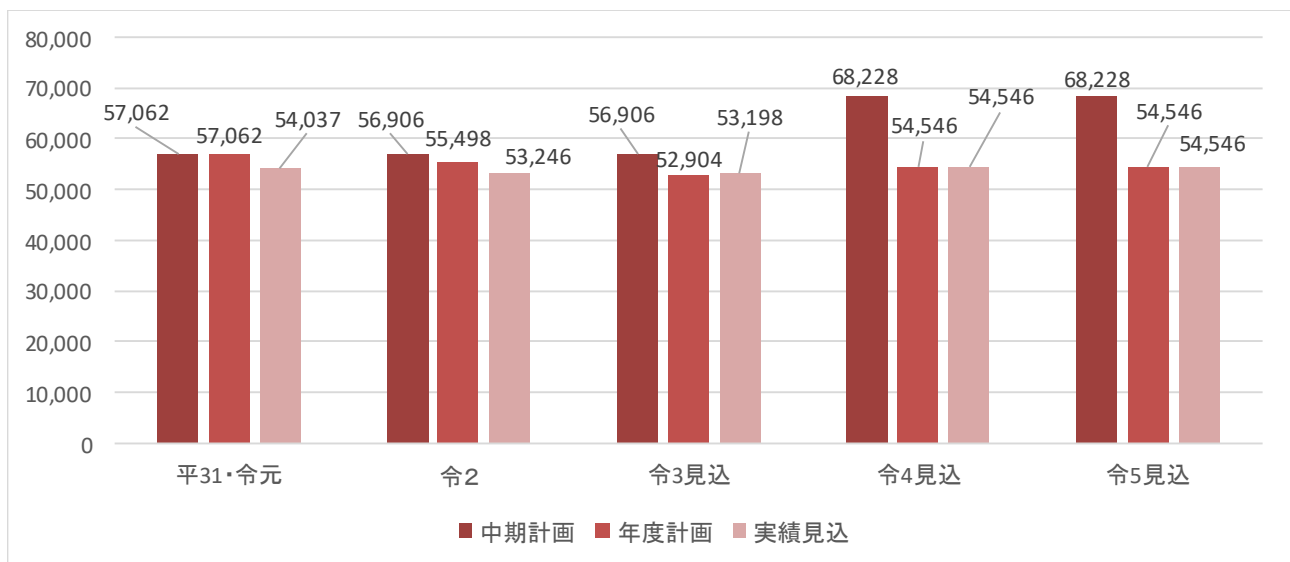
区 分		平31・令元	令2	令3見込	令4見込	令5見込
入 院	年間入院延患者数(人)	54,037	53,246	53,198	54,546	54,546
	患者1人1日当たり単価(円)	24,804	24,814	26,325	25,239	25,239
	平均在院日数(日)	105.0	110.6	111.1	108.9	108.9
	稼働病床稼働率(%)	85.8	84.8	84.7	86.9	86.6
外 来	年間外来延患者数(人)	39,647	37,285	37,390	39,975	39,975
	患者1人1日当たり単価(円)	6,508	6,420	6,320	6,514	6,514

※ 患者1人1日当たり単価は、税込金額(調定額ベースで算定)。平均在院日数は、医療観察法病床を除いて算定。病床稼働率は、172床で算定。

患者数の推移(平成31・令和元年度実績～令和5年度見込)

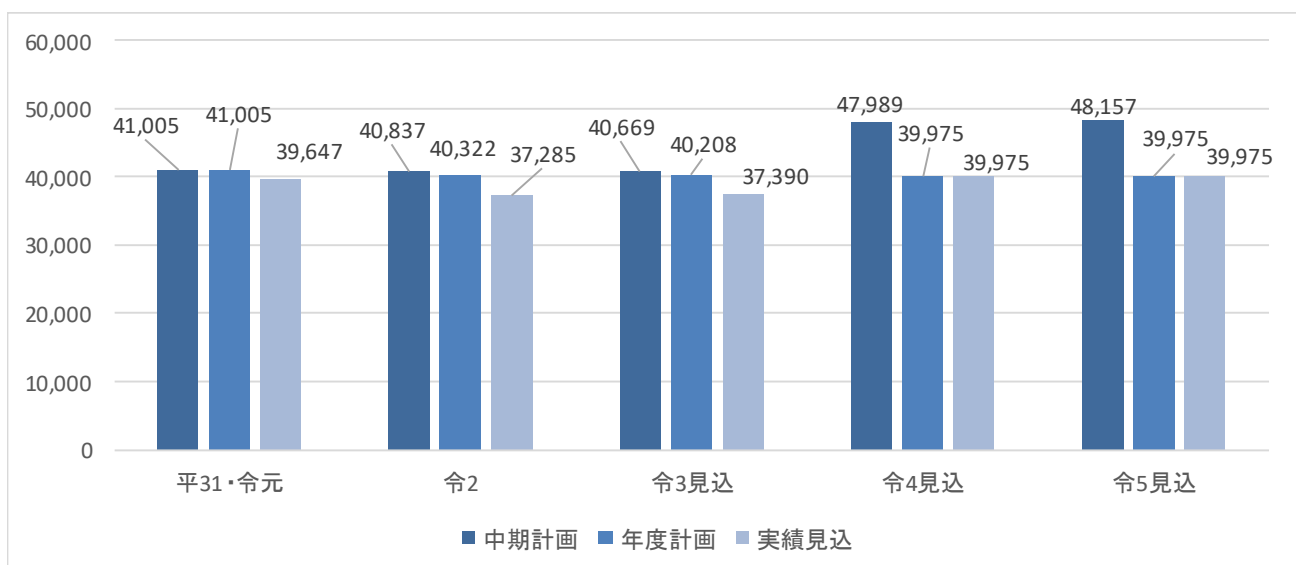
入院延患者数(こころの医療センター)

(単位:人)



外来延患者数(こころの医療センター)

(単位:人)



- ・ 紹介率は、計画を下回っている一方で、逆紹介率は令和2年度までは計画を上回った。今後も地域の医療機関や行政機関と協働し紹介率や逆紹介率の向上に努めていく。

紹介率・逆紹介率

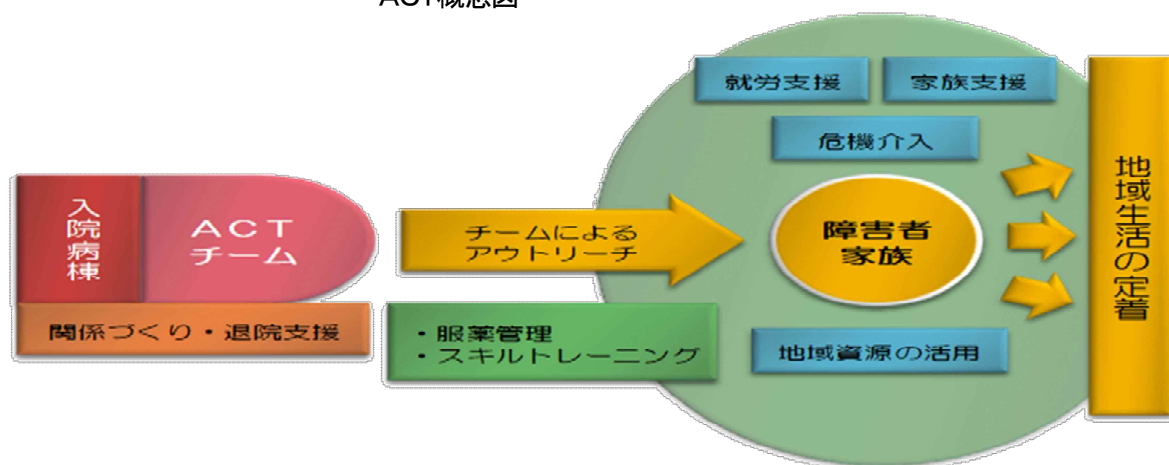
(単位：％)

区 分	平 31・令元	令 2	令 3 見込	令 4 見込	令 5 見込
紹 介 率	56.1	51.2	47.7	57	57
逆 紹 介 率	33.7	30.1	26.9	30	30

○ 特記事項

- ・ 県内唯一の医療観察法指定入院医療機関として本県及び他県関係の入院処遇対象者を受け入れており、機能の充実を図り、地域完結型の医療環境の形成を進めている。
- ・ 新型コロナウイルス感染症に関しては、県の要請により病床を4床（うち2床をスタッフ用）整備しており、患者2名の受入れに対応した。

ACT概念図



ウ こども病院

○ 業務実績を示す各種指標

入院延患者数及び外来延患者数は、新型コロナウイルス感染症の影響により令和2年度に大きく減少したものの、令和3年度には徐々に元の水準に戻りつつあり、令和元年実績を上回る見込みである。

入院単価及び外来単価は、新型コロナウイルス感染症の影響で重症患者の比率が上がったことにより、令和2年度は一時的に増加したが、令和3年度は令和元年度を若干上回る見込みである。

業務実績

区 分		平31・令元	令2	令3	令4見込	令5見込
入 院	年間入院延患者数 (人)	75,736	65,681	66,171	75,948	75,948
	患者1人1日当たり単価 (円)	97,719	102,820	97,989	98,359	98,359
	平均在院日数 (日)	10.3	9.3	9.3	—	—
	病床稼働率 (%)	76.4	66.4	76.0	84.6	84.4
外 来	年間外来延患者数 (人)	111,874	103,773	121,490	116,867	116,867
	患者1人1日当たり単価 (円)	14,131	15,550	14,846	15,081	15,081

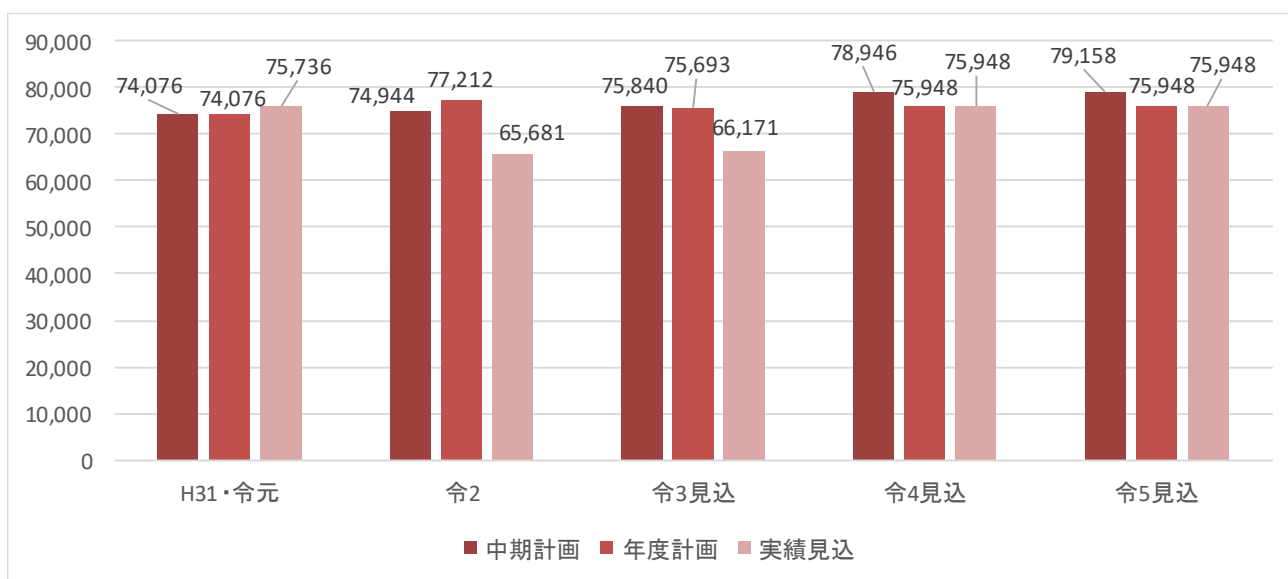
※患者1人1日当たり単価は、税込金額（調定額ベースで算定）。平均在院日数は、NICU、GCU、MFICU、PICU、精神科、短期3を除いて算定。病床稼働率は、令和3年4月までは271床、5・6月は215床、7月は249床、8月以降は245床で算定。

※令3見込は、9月末実績による年間見込。令4・令5見込は令和3年12月2日現在の見込数字

患者数の推移（平成31・令和元年度実績～令和5年度見込）

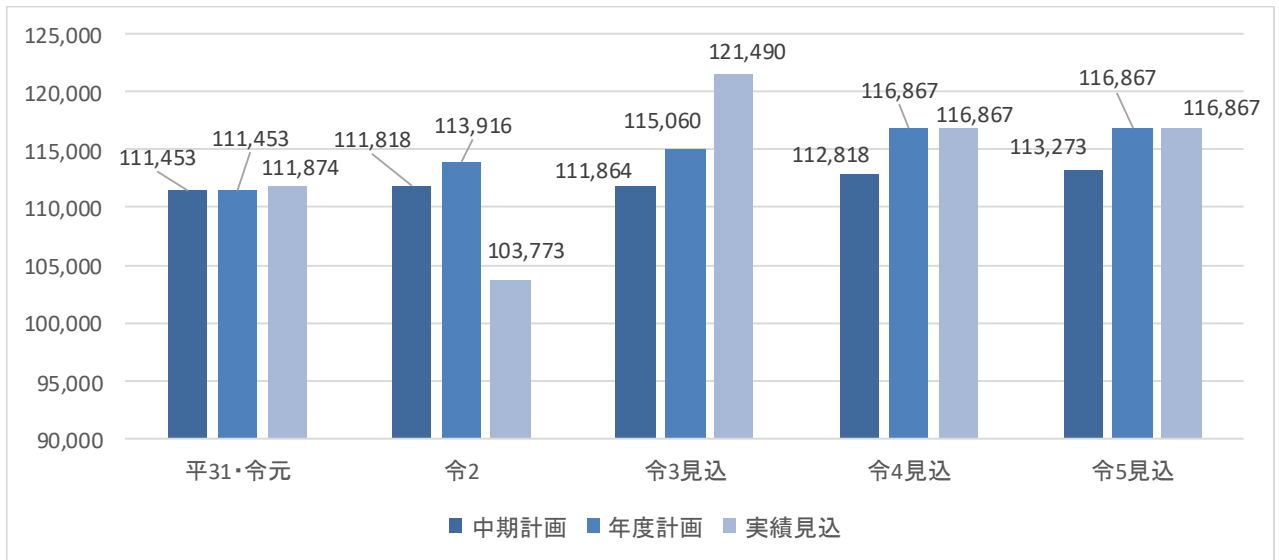
入院延患者数（こども病院）

（単位：人）



外来延患者数（こども病院）

（単位：人）



- 紹介率は、100%に近い実績を維持している。逆紹介率については、年度ごとで上下があるが、今後も他医療機関との連携を強化し、向上に努めていく。

紹介率・逆紹介率

(単位：%)

区 分	平31・令元	令2	令3	令4見込	令5見込
紹介率	90.9	90.7	90.6	90.9	91.8
逆紹介率	47.7	44.8	40.3	44.8	47.7

○ 特記事項

- 全国初の小児循環器集中治療専門医を配置したCCU、カテーテル治療や遠隔エコー診断等の先進的治療など、循環器疾患に対する高度先進的医療の提供に努めている。
- 自治体立病院では全国初、小児専門病院では全国2番目となる小児用補助人工心臓を導入しており、心臓移植が必要な小児患者の治療を移植直前まで可能とする体制を整備している。
- 総合周産期母子医療センターの指定を受け周産期医療の中核を担い、ハイリスク胎児・妊婦、新生児に高度な先進的治療を提供している。
- 平成31年4月には、これまでの小児がん医療への取組みが評価され、厚生労働省から全国15施設の小児がん拠点病院の1つとして新たに指定され、小児がん相談室の設置や、AYA世代患者への研修会開催等により更なる支援体制の充実を図っている。設備面では、病室のクリーン度アップなど機能強化を図り、令和3年7月に北5病棟の工事を完了した。
- 令和元年12月には、がんゲノム医療連携病院となり、がん診療におけるゲノム検査を実施している。
- 小児救命救急センターの指定を受けている小児集中治療センター（PICU）と小児救急センター（ER）を中心に、24時間365日を通して、初期救急を含めた小児救急患者を受け入れている。
- 厚生労働省の「子どもの心の診療ネットワーク事業」に参画し、ネットワーク構築のため学校・地域との連携強化に努めるなど、県内の児童精神科医療における中核的な機能を発揮している。
- 新型コロナウイルス感染症への対応については、県から重点医療機関に指定されており、施設面でPICUにおいて令和2年4月から4床受入れ体制を確保し、令和3年8月中旬以降、MFICUで1床、NICUで2床、北4病棟で3床を追加で確保したほか、陰圧装置なども整備し、入館者に対する問診・検温を実施するなど、院内感染対策も講じている。
- 令和3年6月には、質の高い診療や診療報酬の増収を目指し、PICUとCCUを統合した。

救急の体制



ドクターヘリ



ドクターカー



小児救急センター

北5病棟



AYAラウンジ



クリーン病室



クリーンエリア

(2) 医療従事者の確保及び質の向上

ア 総合病院

- ・ 医療技術者の研修については、研修医の海外研修への派遣や看護師の認定看護師研修への派遣、県立大学との共同研究等により、県立病院に相応しい医療技術者の育成に努めている。また、先端医学棟稼働に伴い、循環器病センター6階から先端医学棟2階へ拡張移転したメディカルスキルアップセンターにおいては、模擬病室の設置や各種高度なシミュレーターの導入により、院内外の多くの医療従事者に利用されており、医療の質の向上に寄与している。
- ・ 国際交流では、友好協力協定及び覚書を締結している中国浙江省の7医院からこれまでに研修生延べ85人（うち医師61人）を受け入れている。また、令和元年10月、浙江中医薬大学附属第二医院と研究友好協力に係る覚書を締結したほか、JICA研修生を受け入れている。
- ・ 令和2年度以降は、新型コロナウイルス感染症の影響により派遣研修及び相互訪問は中止となっているが、オンラインによる学会参加や医療支援物資の受領、書簡の往来など、継続的に交流を行っている。また、静岡社会健康医学大学院大学の開学に際し、浙江省衛生健康委員会をはじめとする浙江省内の7医院から祝辞を受ける等、緊密な連絡体制を維持している。

イ こころの医療センター

- ・ 医療技術者の研修については、認定看護師研修の派遣等、精神医療の向上に資する人材の育成に努め、1名の精神看護(リエゾン領域)の専門看護師や6名の精神科認定看護師が在籍した。

ウ こども病院

- ・ 専門家を招聘してセミナーや研修会を定期的で開催するとともに、海外研修や認定看護師研修等に職員を積極的に派遣するなど、院内外の研修会等を通じて病院全体の医療技術の向上に努めているが、海外研修は令和2年度以降は新型コロナウイルス感染症の影響で中止している。
- ・ 国際交流においては、友好協力協定をしている、マレーシア国立循環病センター、浙江大学附属児童医院、深セン市小児病院との間で、診療支援、医師・看護師の研修派遣・受入れ等、積極的な交流を例年行っているが、令和2年度は新型コロナウイルス感染症の影響で中止している。
- ・ 地域の医療機関等の看護師や看護学生等への継続的な実習研修や、医療関係者を対象とした講演会等を定期的に開催し、職員だけでなく院外の医療従事者にも教育研修機能を開放している。

(3) 医療に関する調査及び研究

- ・ 先端医学棟5階に設置したリサーチサポートセンターを活用し、医師が診療業務をしながら臨床研究に取り組んでいる。
- ・ きこえとことばのセンター（静岡県乳幼児聴覚支援センター）では乳幼児期の難聴や人工内耳の装用による脳の発達メカニズムに関する研究を実施しており、令和3年10月にはNTTコミュニケーション科学基礎研究所と共同研究に関する協定を締結するなど、更なる研究の進展が期待される。また、難聴児の早期発見、早期介入を目的に、地域の医療機関等に対して定期的に研修会を開催し、最新医療に関する情報提供を行っている。
- ・ 県民の健康寿命延伸のため、医療ビッグデータの活用に関する研究、効果的な健康増進施策・疾病予防対策のための疫学研究、ゲノムコホート研究を3本の柱とする社会健康医学研究を実施している。
- ・ 平成30年度より、県と協力しながら取り組んだ研究体制の強化や研究環境の整備の結果、令和3年4月に静岡社会健康医学大学院大学が開学した。開学に向けては、研究員の確保や機器整備等、研究体制の強化に取り組んだ他、規程の整備や推薦者の選定など、医療従事者が働きながら修学できる環境を整えた。
- ・ 令和2年1月、研究の質の更なる向上を図るため、慶應義塾大学院医学研究科との連携協力に関する協定を締結し、機構医師の大学院博士課程への入学等、人的交流を進めている。

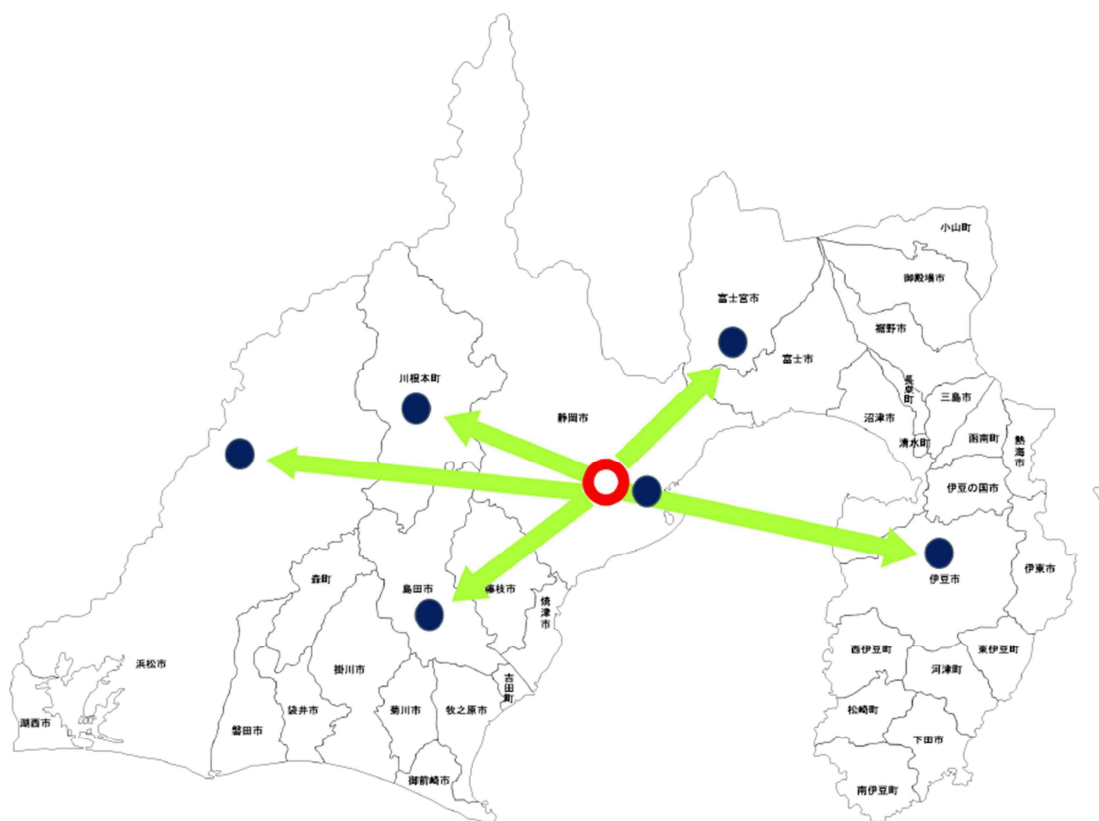
- ・ 効率的な病院運営のため、診療情報（DPCデータ）に基づく症例分析を行い、医局会においてDPC入院期間Ⅱ以内での退院状況や副傷病名の付与率等を報告するとともに、DPCコーディング部会における議論等により、平均在院日数の短縮やDPCコーディングの適正化に取り組んでいる。

（４）医療に関する地域への支援

ア 総合病院

- ・ 地域医療の支援については、平成 19 年に地域医療支援病院として承認されており、医師会・歯科医師会とも連携し、紹介患者への医療の提供、救急患者の受入等の取組を通して地域医療の確保に努めた。
- ・ 県立病院医師交流制度等に基づき 6 医療機関等に対して延 280 人の医師派遣を行うとともに、CT・MRI の高度医療機器の共同利用を推進した。
- ・ また、平成 22 年度総務省委託事業である地域 ICT 利活用広域連携事業により開始した「ふじのくにバーチャル・メガ・ホスピタル」は順調に拡大しており、令和 3 年 9 月末現在、開示施設は 19 病院、参照施設は 128 施設となった。今後も各地域の医師会と協働し、ネットワークの更なる推進に努める。

令和 3 年度 県立総合病院の医師派遣



イ こころの医療センター

- ・ 地域医療の支援については、医師、看護師の講演会等への講師派遣等に取り組んだほか、医療観察法における鑑定の要請に協力する等、県内精神医療の中核病院としての役割を果たしている。

ウ こども病院

- ・ 小児科の基幹研修施設として、新専門医制度に対応した研修を行い適切に対応している。
- ・ 地域医療支援病院としての役割を果たすため、医師不足が顕著な公的病院や急病センター等計 9 の医療機関等に対して、平成 31 年 4 月から令和 3 年 9 月末までに延 1,211 人の医師を派遣した。

- ・ 映像通信システムを通じて、浜松医科大学やマレーシア国立循環器病センターなどと定期的に症例検討会を実施している。また、県内4病院と連携して心エコー画像の遠隔診断を行うなど、映像情報を活用した地域医療機関等との連携及び支援を行っている。
- ・ 児童精神科医療におけるネットワーク構築のため、小中学校教諭を対象とした精神保健講座や児童養護施設の巡回相談を実施するなど、学校・地域との連携強化に努めている。
- ・ 県内の医師や看護師を対象とした症例検討会を開催するなど、地域の周産期医療の質向上と他医療機関との連携体制を強化している。
- ・ 地域の救急医療機関や消防機関を対象とした研究会を開催するなど、小児救急医療の体制強化を図っているが、令和2年度以降新型コロナウイルス感染症の影響で実施できていない。

(5) 災害等における医療救護

- ・ 災害拠点病院は、災害時に多発する重篤救急患者を受け入れ、自己完結型の医療救護チームを被災地に派遣し、地域医療機関への応急用資器材の貸し出し機能を有する病院であり、県下23病院が指定されている。
- ・ 総合病院は、基幹災害拠点病院に指定されており、災害拠点病院の機能をさらに強化した要員の訓練や研修機能を有し、災害医療に関して県の中心的役割を果たす病院であることが求められている。
- ・ 総合病院とこども病院は、「静岡県医療救護計画」に基づき、静岡市の救護病院（重症患者及び中等症患者の処置及び収容を行う病院）に指定されているほか、総合病院における被ばく医療については、原子力発電所の重大事故に備えた原子力災害拠点病院に指定されている。
- ・ 防災計画等の取組については、東日本大震災以降の国の施策の見直しなどに対応した改訂を行うとともに、総合病院では、災害発生時の断水に備えるため、地下水を上水として活用できる装置を導入している。
- ・ こころの医療センターでは、6病院（宮城県立精神医療センター、千葉県精神医療センター、大阪府立精神医療センター、岡山県精神医療センター、島根県立こころの医療センター、山口県立こころの医療センター）と災害時における自治体精神科病院の相互支援に関する協定を締結している。
- ・ こころの医療センターでは、災害発生直後に精神科医療における支援が可能なDPAT（災害派遣精神科医療チーム）を保有し、災害発生時に被災地へのDPATの派遣や県の要請に基づく支援等を実施する体制を整備している。
- ・ 令和3年2月1日には、診療機能、一時的避難所及びDPAT派遣機能を有した災害拠点精神科病院として、県内では初となる指定を受けた。
- ・ 令和3年7月に発生した熱海市土石流災害においても、県の要請に基づきDPATを派遣し、拠点を設置して被災者のこころのケアに従事した。
- ・ こども病院では、令和3年3月に南海トラフ地震事業継続計画（BCP）を策定し、あわせて地震防災マニュアルの見直しを行った。令和3年11月にBCPに基づく本部運営訓練と初動体制の確認訓練を行った。
- ・ また、こども病院では、令和3年7月の熱海市土石流災害では、DPAT本部から派遣要請があり、医師1名がDPAT活動を行った。

4 業務運営の改善及び効率化に関する目標を達成するためとるべき措置

(1) 効率的な業務運営体制の強化

ア 機構全体

- ・ 理事会、運営会議、総務・経営担当課長会議を、8月を除く原則毎月開催し、意思決定の迅速化に努めている。令和2年度に関しては新型コロナウイルス感染症感染拡大防止等のため、一部の会議を中止した。
- ・ 医療機器の購入について、購入と複数年分の保守を一括で入札することで、全体での経費削減に取り組んだ。
- ・ 第3期地方独立行政法人制度のメリットを活かして契約の複数病院一括化及び複数年契約化を進める一方で、契約によっては分割して発注することによって競争性を高めるなど、柔軟に契約方法を変更することで経営改善を推進している。
- ・ 経費の節減のみならず、モニタリング制度（インセンティブ（契約期間の延長）の付与や業務内容が適切ではない場合の減額等が課せられている。）の適用などにより、業務の質の向上も図った。
- ・ 業務改善の推進として、機構の業務改善運動推進制度を設置しており、業務改善に積極的に取り組む組織風土の醸成に努めている。なお、令和2年度は、機構内において新型コロナウイルス感染症対策について様々な取組が取られている。このため、当該関連業務への顕著な取組に限定して表彰を行った。

イ 総合病院

- ・ 平均在院日数の短縮に向け、各診療科においてDPC入院期間Ⅱ以内での退院を促進し、効率的な病棟運営に努めている。
 - ・ 先端医学棟3階、4階に新設した22室を含む23室の手術室（ハイブリッド手術室、内視鏡手術室、ロボット支援手術室等）とHCU20床の一体的かつ効果的な運用に努めている。
 - ・ 患者サポートセンターによる入院前から退院後までの一貫した支援（入院前問診・オリエンテーション等）により、患者満足度向上と病棟看護師の業務量軽減を図っている。令和3年度も、新型コロナウイルス感染症専門病棟の運営や耐震補強を含む病棟改修工事等の状況を踏まえながら、空床情報の一元管理と適切なベッドコントロールを行っている。
 - ・ 重症系病棟の稼働率向上に向けて、医師が中心となり効率的な病棟運営に努めている。
- 自治体共済会MRPベンチマークシステムの活用及び共同購入組織「一般社団法人日本ホスピタルアライアンス（略称：NHA）」への加盟により、薬品、診療材料に係る価格交渉や品目の切り替えを推進し、薬品費、診療材料費の削減に努めている。

ウ こころの医療センター

- ・ 平成28年2月に導入した精神科医療に特化した電子カルテを活用し、情報の共有によるチーム医療の推進、並びに業務の効率化・省力化を進めた。
- ・ 毎月の経営戦略委員会や管理会議において病院の経営状況を報告するなど、院内で経営に関する情報を共有することにより、職員全体の経営意識の向上を図った。

エ こども病院

- ・ 医事委託業者と共同で定期的に勉強会等を実施し、各診療科との連携を密にして確実に診療報酬請求を行うなど、診療収益の増加に努めている。
- ・ 診療材料の単価、品目、業者等の見直し、消耗品の節約、委託契約の業務内容の見直し、職員の時間外勤務の適正化等により、経費削減に努めた。また、令和元年10月から共同購入の取組開始を開始し、汎用材料の価格削減を図っており、採用品の増加を進め、参加分野の拡大を検討している。
- ・ 毎月の管理会議において病院の経営状況を報告するなど、院内で経営に関する情報を共有することにより、職員全体の経営意識の向上を図っている。

(2) 事務部門の専門性の向上

- ・ 事務職員基礎研修、会計研修等を実施し、業務関連知識の向上を図った。
- ・ 令和2年度以降は、働き方改革関連法に対応するため新たに労務管理者研修を追加し、実施している。
- ・ 診療情報管理士資格については取得支援制度により、資格者の増員を図っている。
- ・ 業務の標準化を図るため、事務部門の業務マニュアル整備・活用に向けた取組を実施し、あわせて、院内コミュニケーションシステム上にマニュアルを公開し、情報の共有化を図った。

(3) 収益の確保と費用の節減

- ・ 今期中は、薬品費や診療材料費については、競合する薬剤を引き合いに出した交渉により薬品費の大幅な値引を実現しているほか、診療材料の共同購入による価格交渉など経費の節減にも取り組んできた。
- ・ また、SPD が期限を確認し、期限切迫品を表示している他、使用頻度の高い部署への移管などを行い、多くのロスを防いでいる。